



インドネシア共和国  
看護教育プロジェクト  
エバリュエーション調査団報告書

JICA LIBRARY



1029065[8]

昭和59年 3月

国際協力事業団  
医療協力部

国際協力事業団	
受入 月日 '84.12.18	108
登録No. 10935	92.9
	MCF

## は じ め に

インドネシア国看護教育プロジェクトは、昭和53年11月に署名された討議々事録(R/D)により開始され間もなく5年間の協力期間を終了しようとしている。

本プロジェクトはインドネシア国保健省教育訓練センターが実施している看護教育の中で看護教員養成校に重点をおき協力を行ってきた。

当事業団はこれまでの協力の成果等を調査するため清水嘉与子厚生省看護課長を団長とするエバリュエーション調査団を昭和58年6月12日から20日まで派遣した。本報告書は同調査団の調査結果をとりまとめたものである。

R/D終了後の対応については、今次調査の結果を充分踏まえ決定されることとなるが、これまで本プロジェクトの支援機関として多大のご協力をいただいた厚生省および(財)国際看護交流協会等の関係各位並びに今次の調査団員に対し深甚なる謝意を表する次第である。

昭和59年 2 月

国 際 協 力 事 業 団  
理 事 長 谷 川 正 男

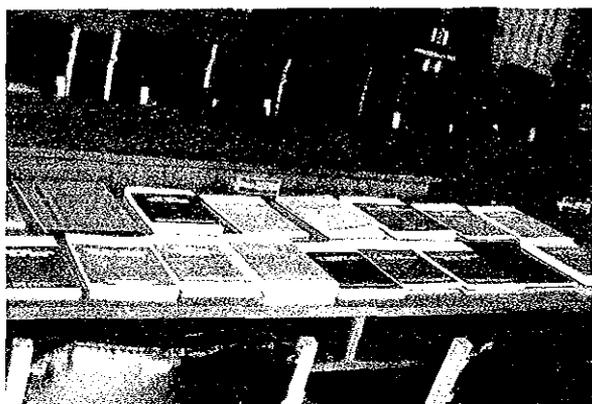




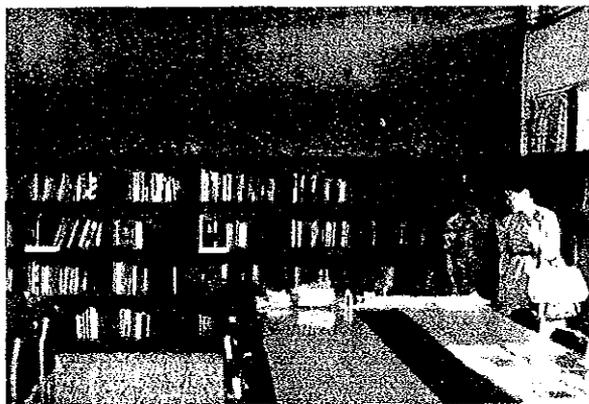
調査団員と派遣専門家



ウジェンバンダン看護教員養成校  
(左側 藤井書記官)



協力期間中作成された参考図書



DCNE図書室



# 目 次

I. 調査団派遣の経緯	1
II. 調査団の派遣目的、構成及び日程等	3
III. 日本側投入実績（専門家、機材、研修員等）	6
IV. プロジェクトの評価	11
1. 看護教育カリキュラム改善	11
2. 教育内容、教授法改善	17
3. インドネシア側実施体制	18
4. 帰国研修員の活動	27
5. 日本人専門家の活動	27
6. 供与機材の活用、管理状況	28
7. インドネシア側のプロジェクト評価	30
V. 総合評価と提言	34
VI. 資料	36
1. (1) 討議々事録（R/D）と議事録（Minutes）	37
(2) 追加討議々事録	56
2. 保健省教育訓練センター組織図	58
3. 保健省教育訓練センターが管理する各種学校数	59
4. 看護教育開発センタースタッフ・リスト	60
5. 看護教員学校（4校）の教員リスト	62
6. 看護教員学校の学生数	64
7. 州別保健看護学校数	65
8. 州別看護アカデミー設置状況	66
VII. 教材修理旺報告書	67



## I. 派遣の経緯

(インドネシア国政府からの協力要請)

1977(昭和52)年7月-事前調査団の派遣(勝沼晴雄団長ほか4名)

1978(昭和53)年1月-永野(当時国際看護交流協会常務理事)及び清水(当時厚生省看護課課長補佐)両専門家の派遣

1978(昭和53)年8月-看護教育施設建設計画事前調査団の派遣(平山宗宏団長ほか5名)

10月-実施協議調査団の派遣(勝沼晴雄団長ほか3名)

○討議々事録(R/D)の署名

○協力期間を1978年11月3日から5年間とする。

○協力内容を看護教育カリキュラム及び看護教育方法の改善とする。

(注) 本調査団と同時に無償資金協力関連で基本設計調査団が派遣される(団長は勝沼先生が兼務)

1979(昭和54)年5月-計画打合せチームの派遣(永野団長ほか2名)

○昭和54年度の協力計画

○中堅技術者養成対策事業につきR/D追加

9月-永野貞チームリーダー及び会津碩嗣調整員の派遣(長期)

12月-Mrs. Mardiyah(ウジュンパンダンSGP教員)来日(12/4~5.9/30)

1980(昭和55)年2月-小島操子専門家の派遣

5月-第1回JOINT COMMITTEE開催

-吉田時子(当時厚生省看護研修研究センター所長)及び松下和子(聖路加看護大学教授)両専門家の派遣(短期)

-SGP(看護教員養成校)カリキュラム第1回検討会開催(於:ジャカルタ)

-Mr. Soerjanto(ウジュンパンダンSGP校長)及びMrs. Soehari(スラバヤSGP校長)来日(5/17~6/16)

7月-SGPカリキュラム第2回検討会(於:テロト)

8月-藤門政子チームリーダー及び吉田谷弘専門家の派遣(長期)

-SPK新カリキュラム実施開始

9月-永野チームリーダー帰任

-Dr. Isa(保健省教育訓練センター所長)来日(9/24~10/3)

- 1 1 月 - Mr. Siger (スラバヤ SGP 教員) 及び Miss Sulastri (バンドン SGP 教員) 来日 ( 1 1 / 2 0 ~ 5 6 . 1 0 / 3 1 )
- 1 2 月 - 第 2 回 JOINT COMMITTEE のため吉田及び竹内一郎 (国際看護交流協会事務局長) 両専門家の派遣
- 1 9 8 1 ( 昭和 5 6 ) 年 3 月 - 清水寿夫 専門家 (A. V. A) の派遣 (短期)
- 4 月 - 看護教育開発センター (DCNE) 及び ウジコンパンダン看護教員養成校の開所式
- 国内委員会正式に設置
  - 第 3 回 JOINT COMMITTEE 開催
- 7 月 - Mr. Bambang (DCNE の A. V. A スタッフ) 来日 ( 7 / 2 3 ~ 1 0 / 5 )
- S P K (保健省看護婦養成校) カリキュラム開発委員会開催 (於: バンドン SGP)
  - SGP 新カリキュラム開始
- 1 1 月 - 澤田順子 専門家の派遣 (長期)
- SGP カリキュラム第 3 回検討会開催 (於: バンドン)
- 1 2 月 - Mrs. Annas (ウジコンパンダン SGP 教員) 来日 ( 1 2 / 3 ~ 5 7 . 1 1 2 0 )
- 第 4 回 JOINT COMMITTEE 開催
- 1 9 8 2 ( 昭和 5 7 ) 年 2 月 - SGP (看護教育養成校) カリキュラム改善のための上級コース開催 (於: ウジコンパンダン SGP)
- 3 月 - 巡回指導チームの派遣 (永野貞団長ほか 4 名)
- 5 月 - Mr. Syaefudin (DCNE) 来日 ( 5 / 2 1 ~ 9 / 1 )
- 6 月 - Mr. Bawano Soeyono (DCNE) 来日 ( 6 / 4 ~ 8 / 2 8 )
- 8 月 - 第 5 回 JOINT COMMITTEE 開催
- 会津調整員帰任
- 1 0 月 - S P K (保健看護婦学校) カリキュラムの検討会開催
- (於: ラロト)
- Miss Ani (ジャカルタ SGP 教員) 来日 ( 1 0 / 2 8 ~ 5 8 . 1 0 / 2 7 )
- 1 2 月 - DCNE のスタッフが 4 4 名に増員
- 1 9 8 3 ( 昭和 5 8 ) 年 2 月 - Mr. Said Effendie (スラバヤ SGP 教員) 来日 ( 2 / 1 0 ~ 1 2 / 2 0 )
- 3 月 - Mr. Radiat (DCNE 所長) 及び Mr. Stia (CET 総務課長) 来日 ( 3 / 3 ~ 3 / 2 7 )

## Ⅱ. 調査団の派遣目的、構成及び日程

### 1. 目的

昭和53年11月より開始した看護教育プロジェクトが昭和58年11月に終了するため、協力の効果を測定すると共に、インドネシア国側へのプロジェクト引継ぎの可否等につき調査を行う。

### 2. 構成

- |         |         |                       |
|---------|---------|-----------------------|
| (1) 団 長 | 清 水 嘉与子 | 厚生省医務局看護課長            |
| (2) 団 員 | 井 上 幸 子 | 日本看護協会常任理事            |
| (3) 同   | 志 摩 チヨ江 | (財)国際看護交流協会理事         |
| (4) 同   | 田 島 桂 子 | 厚生省看護研修研究センター主任教官     |
| (5) 同   | 熊 倉 晃   | 国際協力事業団医療協力部医療協力課課長代理 |

### 3. 日 程

6月12日(日)	11:00 成田発 $\xrightarrow{\text{GA889}}$ (デンパサール経由) 18:40 ジャカルタ着 (藤井書記官、猪俣所員、藤門リーダー、吉田谷、澤田両 専門家の出迎えを受ける)
	20:30 宿泊先(PRESIDENT HOTEL)にて日程等打合せ
13日(月)	9:00 JICA事務所にて派遣専門家より看護教育制度等の現状 につきブリーフィングを受ける。
	10:30 日本大使館(藤井一等書記官)表敬
	11:40 JICA事務所(宮本所長)表敬 (JICA事務所主催昼食会)
	14:00~看護教育開発センター(DCNE)にてRadiat所長、並び にジャカルタ、ウジュンパンダン、バンドン、スラバヤ各 看護教員養成校の校長等よりプロジェクトの効果等につき 意見を聴取する
14日(火)	9:00~保健省教育訓練センター(Pusdiklat 又はCET)表敬 (DR. Hapsara所長)及び「イ」側のプロジェクト評価、 第4次国家開発計画に於ける人材養成政策等の説明を受け る
	14:00~ジャカルタ市内の保健省看護婦学校 SPK Persahaba

		tan)を視察
		新カリキュラム及びプロジェクト下において開発された教材 (参考図書)の活用状況等につき調査を行う
15日(水)	9:45	ジャカルタ発 $\xrightarrow[\text{(時差1時間)}]{GA730}$ 12:45 ウジュンパンダン 着
	14:00	ウジュンパンダン総領事館(星川総領事)表敬及び意見交換
16日(木)	9:00~	ウジュンパンダン看護教員養成校に於てプロジェクトの効果、 評価等につき同校校長と協議する
	17:20~	ウジュンパンダン発 $\xrightarrow{GA745}$ 18:20 ジャカルタ着
	20:00~	調査団内打合せ
17日(金)	9:00~	ジャカルタ(チランダック)看護教員養成校視察 新カリキュラム及びプロジェクトの効果等につき調査する
18日(土)	9:00~	第6回JOINT COMMITTEEに出席。プロジェクトの評 価(効果及び「イ」側に対する提言)報告を行う
	13:40~	保健省次官(DR. Soekaryo)、医務総局長(DR. Isa)及び 官房総務局長(Mrs. Emma)表敬 (藤門リーダー主催夕食会)
19日(日)		資料整理
20日(月)	8:00	ジャカルタ発(Hong Kong経由)成田着 (注) 熊倉団員のみ19:20 ジャカルタ発21日成田着

#### 4. 会議出席者名簿

(注) 調査団を除く

6月13日 (於: DCNE)

<日本側> 藤門リーダー、吉田谷、澤田両専

<インドネシア側> Mr. H. Ojo Radiat <所長>、Mr. H. Y. H. Syahlan,

Mr. Syaefuddin, Mrs. Sunarsih Gunawan,

Mr. Susilawati, Miss Ketut Lisdiani,

Mr. Sawijan (以上DCNE)

Mr. Siger Tamboang (スラバヤ看護教員養成校教員)

Mr. Sutjahjo (バンドン看護教員養成校教員)

Mr. Johanis C. Randing (ジャカルタ看護教員養成校々長)

Mr. Hussein (ウジュンパンダン看護教員養成校次期校長)

6月14日 (於: CET)

<日本側> 藤井一等書記官、猪俣ジャカルタ事務所員、藤門リーダー、吉田谷、

澤田両専門家

<インドネシア側>

DR. Hapsara (CET所長)

Mr. Sutia (CET事務局長)

Mr. Radiat

6月16日

(於:ウジュンバンダン看護教員養成校)

<日本側>

藤井一等書記官、藤門リーダー

<インドネシア側>

Mr. Soerjanto (校長)、Mr. Hussein (次期校長)

Mrs. Mardiyah (教員)、Mrs. A. Anas (教員)

Mr. Syaefuddin (DCNE)

6月18日

(於:DCNE)

<日本側>

藤井一等書記官、猪俣所員、藤門リーダー、吉田谷・澤田両専門家

<インドネシア側>

Dr. Hapsara, Mr. Sutia, Miss Stien, Dr. Wattimena

(以上CET) Mr. Radiat, Mr. Syahlan, Mr. Syaefuddin,

Mrs. Naertjaja, Mrs. Sunarsih, Mrs. Susilawati,

Mr. Sawijan, Miss Ketut Lisdiani (以上DCNE)

### Ⅲ. プロジェクトの実績

#### 1. 日本側投入実績

##### (1) 総 表

年 度	プロジェクト 総 経 費	調 査			機材金額 千円	専 門 家			研修員 人 数
		年/月	区 分	金 額 千円		人 数 長期	人 数 短期	金 額 千円	
5 2	1,817	52/7	事前調査	1,817	0	0	0	0	
5 3	3,135	53/10	実施協議	3,135	0	0	0	0	
5 4	63,766	54/5	計画打合	2,630	35,077	2	2	26,059	1
5 5	63,643				18,960	2	5	44,683	5
5 6	90,319	57/3	巡回指導	3,493	26,112	1	0	60,714	2
5 7	73,776			130	13,535	0	0	60,111	6
総計	296,456			11,205	93,684	5	7	191,567	14

(注1) 事前調査経費はタイと同時に実施したため等分し計上した。

(注2) プロジェクト総経費には研修員受入経費は含まれていない。

(注3) 専門家派遣人数は新規のみ表示する。

(注4) 中堅技術者養成対策費は専門家経費に計上されている。

##### (2) 各種調査団の派遣

###### ① 事前調査団（派遣期間：昭和52年7月12日～7月17日）

団 長 勝 沼 晴 雄（東京大学名誉教授、国際協力事業団運営審議会委員）

団 員 永 野 貞 （財団法人国際看護交流協会常務理事）

” 山 田 里 津（三井記念病院看護学院長）

” 竹 内 一 郎（財団法人国際看護交流協会事務局長代行）

” 小野寺 伸 夫（国際協力事業団医療第二課長）

###### ② 実施協議調査団（派遣期間：昭和53年10月22日～11月4日）

団 長 勝 沼 晴 雄（杏林大学副学長）

団 員 吉 田 時 子（厚生省看護研修研究センター所長）

団 員 永 野 貞 （財団法人国際看護交流協会理事）

団 員 野 福 文 徳（国際協力事業団医療協力部医療第二課職員）

###### ③ 計画打合せ調査団（派遣期間：昭和54年5月16日～5月31日）

団 長 永 野 貞 （財団法人国際看護交流協会理事）

団 員 伊 藤 暁 子（厚生省看護研修研究センター教務科長）

団員 野 福 文 徳（国際協力事業団医療協力部医療第二課職員）

④ 巡回指導調査団（派遣期間：昭和57年3月23日～3月31日）

団長 永 野 貞（財団法人国際看護交流協会常務理事）

団員 都 築 公（社会保険中央看護専門学校副校長）

日比野 路 子（静岡県立静岡女子短期大学教授）

伊 藤 暁 子（厚生省看護研修研究センター教務科長）

青 山 貴世美（国際協力事業団研修事業部研修第二課職員）

(3) 専門家の派遣

年 度	氏 名	指 導 科 目	派 遣 期 間	
54	会 津 硯 嗣	業 務 調 整	54. 9. 1~57. 8. 31	(1年延長)
	永 野 貞	チームリーダー	54. 9. 12~55. 9. 11	
	野 福 文 徳	中堅技術者養成 対策計画調整	54. 10. 31~54. 11. 15	
	小 島 操 子	外 科 看 護	55. 2. 4~55. 3. 31	
55	吉 田 時 子	看 護 教 育	55. 5. 25~55. 6. 7	(1年3ヶ月延長)
	松 下 和 子	"	"	
	☆ 吉田谷 弘	"	55. 8. 22~58. 11. 4	
	☆ 藤 門 政 子	" (チームリーダー)	"	
	竹 内 一 郎	計 画 調 整	55. 12. 16~55. 12. 22	
	吉 田 時 子	看 護 教 育	55. 12. 16~55. 12. 21	
	清 水 寿 天	視 聴 覚 教 育	56. 3. 20~56. 6. 19	
56 ☆	澤 田 順 子	看 護 教 育	56. 11. 5~58. 11. 4	

☆ エバリュエーション調査団派遣時の派遣中専門家

## (4) 機材の供与

年 度	供 与 額	主 な 機 材
5 4	千円 3 5, 0 7 7	複写器、タイプライター、万能実習用モデル人形、 ポータブル心電計、妊娠子宮模型、助産婦キット、 人体解剖模型、参考図書、車輛その他
5 5	千円 1 8, 9 6 0	記録式実習用モデル人形、万能実習用モデル人形、 酸素テント、蘇生器、ストレッチャー、保育器、 産婦人科検診台、助産婦キット、車輛その他
5 6	千円 2 6, 1 1 2	心音心電計、ビューレット、検尿器機セット、 参考図書、視聴覚教材、車輛その他
5 7	千円 1 3, 5 3 5	万能実習モデル人形、分娩用モデル人形、 自動輸液ポンプ、助産婦キット、V T R、 タイプライターその他
合計	千円 9 3, 6 8 4	

## (5) カウンターパートの受入れ

Year	Name		Subject	Duration
1979	Mardiyah	SGP Ujung Pandang	Pediatric Nur.	1 year
1980	Soerjanto	SGP Ujung Pandang	Administration	1 mon.
	Soeharti	SGP Surabaya	Administration	1 mon.
	Dr. M. Isa	Pusdiklat	Observation	2 wks.
	Sulastri	SGP. Bandung	Pediatric Nur.	1 year
	S. Tambuang	SGP. Surabaya	Med/Surg. Nur.	1 year
1981	A. Annas	SGP Ujung Pandang	Surgical Nur.	1 year
	Bambang	D.C.N.E.	AVA Technic	3 mon.
1982	Syaefudin	D.C.N.E.	Administration	3 mon.
	B. Soeyono	D.C.N.E.	AVA Programmer	3 mon.
	A. Dachlan	SGP Jakarta	Med/Surg Nur.	1 year
	Said	SGP Surabaya	Surgical Nur.	1 year
	Sutia	Pusdiklat	Administration	3 wks.
	O. Radiat	D.C.N.E.	Administration	3 wks.

年度別実績

<p>Fiscal 1977 (昭和52)年 7/12 7/17 → 事前調査 Preliminary Survey</p>	<p>Fiscal 1978 (昭和53)年 10/22 11/4 → 実施協議 Implementation 8/9 8/22 → 無償資金協力 事前調査 11/3 R/D及び Minutes に署名 プロジェクト開始</p>	<p>Fiscal 1979 (昭和54)年 5/16 5/31 → 計画打合せ Planning &amp; Adjustment 専門家(長2 短2) 9/12 → 9/1 → 調整員 10/31 11/15 2/4 → 野福文徳 小島操子</p>	<p>Fiscal 1980 (昭和55)年 3月 D.C.N. 引渡 ウジエンバンダンSGP 約1.5億円 専門家(長4(新規2)短5) 8/21 9/11 → 永野 貞 藤門 政子</p>
		<p>機材供与 35,077円 研修員受入 (10名) 1名 中堅技術者 15,602,000円</p>	<p>機材供与 18,960円 研修員受入 (25.5名) 5名 中堅技術者 13,028,000円</p>

Fiscal 1981 (昭和56)年 巡回指導 Advisory 3/23 3/31	Fiscal 1982 (昭和57)年 3/31	Fiscal 1983 6/12 6/20 エバリュエーション Evaluation	
専門家(長4(新1) 短1(新0)) チームリーダー 藤門政子 調整員 会津碩嗣 吉田谷 弘 6/19 11/4 清水寿夫	専門家(長4(新0)) 8/31 澤田 順子	専門家(長3(新0)) 11/4 11/4 11/4	
機材供与 26,112千円 研修員受入 (14.5名) 2名 中堅技術者 10,405,000円	機材供与 13,535千円 研修員受入 (30.5名) 6名 中堅技術者 8,050,000円		

## Ⅳ. プロジェクトの評価

### 1. 看護教育カリキュラム改善について

インドネシアにおける看護教育プロジェクトの一環として、カリキュラム改善に関する問題が検討されるようになったのは、1979年9月である。この年にわが国は専門家を派遣し、看護教育の事情調査を始めたのである。

その後、Joint Committee Meeting(1980年5月30日-6月3日)と同時に、Senior Nursing Course が開催され、カリキュラム開発についての討議および年間プログラムが作成された。そのスケジュールに従って、看護教育の全般的な見なおしと、将来計画を含めた種々の検討がプロジェクト・チームメンバー同席のもとに行われ、改善に向けての新たなシステムおよびカリキュラムの作成等が順調に進められてきた。その内容には、中堅技術者養成(Diploma)プログラム、保健看護婦(Health Nurse)養成校(SPK)カリキュラム、看護教員養成校(SGP)カリキュラムなどがある。また、看護教育制度、新しい制度に伴うカリキュラム編成についても、1985年実施を目標として、詳しい検討が加えられている。

今回の視察では、SGPのカリキュラム改善とその運営の実態に焦点をあてたので、以下では、SGPのカリキュラムを中心として述べることにする。

SGPの新カリキュラムは、カリキュラム改善検討会(1982年3月7日-3月17日、ウジュンパンダン)で作成されたものである。その検討会では、1976年から実施されていた従来のカリキュラム(旧カリキュラム)について、基礎看護の内容が不十分である。専門看護の内容が少ない、という問題がとりあげられ、その検討をふまえて作られたのが新カリキュラムである。新カリキュラムによる実際の教育は1982年8月の新入生から始められた。

#### (1) 新カリキュラムの構成

新カリキュラムは、表Aに示す授業科目から成り、1年間で45単位修得できるようになっている。内容面の特徴を旧カリキュラムと対比しながらあげてみると次のようになる。

- 1) 授業科目は、一般教養科目(5単位)、基礎看護科目(10単位)、専門看護科目(10単位)および教職科目(20単位)の4つの部門から構成されており、旧カリキュラムの「看護教育」科目が、「基礎看護」科目と「専門看護」科目に二分された点に特徴がある。
- 2) 一般教養科目には、「インドネシア語」および「英語」の他に、「宗教」、「Pancasila」(インドネシアの基本大原則)、「体育」が入っている。つまり、学生が信仰する宗教を大切に、国の基本大原則に関する理解を深めるための科目が新カリキュラムに組込まれたのである。
- 3) 看護関係科目のうち、「基礎看護」科目では、看護に必要な基礎的知識・技術を全般的に学習できる科目構成とし、「看護におけるコミュニケーション」、「秩序と疾病の概念」、

「看護の概念」、「看護過程」、「看護のかかわり方」の科目を設定している。「専門看護」科目では、専門性を明確にした5つの領域

- ① 内科・外科看護
- ② 公衆衛生看護
- ③ 母子保健および家族計画
- ④ 小児看護
- ⑤ 精神看護

を設定し、選択制にしている。このような内容区分と選択制の導入は、看護の基礎学習の充実と専門領域の学習を深める意図で行われたものである。

A) 教職科目では、「教育原理」、「教育計画」、「教育管理」、「教育評価」、「看護科教育法」、「教育実習」の6科目を設定し、修得単位を20単位(旧カリキュラムの約5.5倍)としている。このような教職科目の大幅な増設は、教育庁の定める教師の資格認定単位(90単位)との関係を考慮してのことと思われる。

## 2. 新カリキュラムの運営

### 1) 教育の具体的なすすめ方について:

教育のすすめ方は、表Bに示す通りで、前期(初期の6ヶ月)で一般教養科目、基礎看護科目および教職科目の理論的な内容を集中的に学習し、後期に病院・地域実習および教育実習を行うようになっている。

### 2) 各科目の担当講師について:

一般教養科目および教職科目については、ほとんどを大学系の非常勤講師に依頼している。ただし、教職科目のうち、「教育計画」、「看護科教育法」については、看護教師が担当している。

看護関係科目のうち、「基礎看護」科目についてはすべて看護教師が担当しており、「専門看護」科目についても、看護教師の担当時間数が圧倒的に多い。

### 3) 臨床実習について:

各専門領域では理論を教室内で学習する時間を少なくし、臨床における実習を重視している。臨床実習の指導については、SGPの教師の指導の下に行う実習と学生だけで行う実習とを区別し、限られた教員数の中で教育効果をあげるための工夫がなされている。ちなみに、教師の指導のもとに行われる実習は、特別講義、実習室実習および病院・地域実習とを有効に組み入れながら行われている。

### 3. SGP校のカリキュラム改善の評価

新カリキュラムによる教育は緒についたばかりで、現在、第一回生が教育の途上(1983年8月卒業式)にある。したがって、現時点で新カリキュラムの評価を行うのは無理であるが、現場の教師のほとんどが、次のような点で改善されたとして高く評価している。

- 1) 看護に関する教育内容が基礎科目と専門科目に区分されたので、それぞれの内容が明確になった。
- 2) 看護の基礎科目が細かく区分され、取り上げる内容が明確になり、専門看護の領域に取り組む際に、基礎として有効に活用できる内容となった。ことに「看護の概念」と「看護過程」の導入については意義がある。
- 3) 専門看護の内容が5つの領域に分けられ、選択制になったので、教授-学習内容が専門領域で精選できると同時に内容的な深まりが期待できるようになった。

現場の教師が、上記の諸点をあげて新カリキュラムを高く評価しているのは、一年間で教育できる内容とSGPに入学する学生の背景からみて、当然のことと思われる。

SGPの入学資格は、PK校(中学校卒業後入学する3年制の教育)の卒業生で、2年間の臨地経験を持っていることである。つまり、合計5年間の学習・臨地経験をもってSGPに入学し、1年間の学習を経て、専門領域をもちながら、PKの役割が果たせるような保健看護婦を養成する教師が求められているからである。

旧カリキュラムでは、新カリキュラムで「基礎看護」の内容と5つの領域に区分された「専門看護」の全領域を取り上げ、広く浅く、また基礎的学習内容と専門領域の学習内容との関係があいまいのまま教育されていたわけであるが、新カリキュラムは、それらに対する問題を解決するのに役立っているわけである。このような現状を考えれば、新カリキュラムのねらいは十分に達成されているものと思われる。

新カリキュラムの運営面については、看護の専門科目の授業を積極的に看護教師が担当し、看護の視点から教育しようとする姿勢がみられること、比較的多くの時間数を実習にあてようとしていることが特徴としてあげられる。このような取組みは看護教育の望ましい方向性を示すものである。この動きの背景には、わが国の教材提供や派遣専門家の直接的な指導による影響も大きいと思われる。

しかしながら、実際には次のような運営上の問題もあるように思われる。

- 1) 新カリキュラムでは、専門領域が打出されたが、それは必ずしもそれぞれの領域を担当できる教師の質および需給対策との関係で考えられていない。たとえば、現在担当できる教師がいなかったために5つの全コースが開講されていないという実情がある。
- 2) SGP入学者の背景とPK校の1教師として期待される能力との間には、かなりの差がある。SGPではその差を一年間でできるだけ埋めるための努力をすべきであるが、それには教授-学習内容が多すぎる。新カリキュラムによって、教師に必要な内容が整理され

たとはいえ、実際の教授－学習の場では、過去5年間の学習・経験の上に新たな学習内容を積重ねるのではなく、看護に必要な基礎的知識・技術の再学習を行うと同時に、専門領域との取組みも行なわなければならないのが実情だからである。

- 3) 新カリキュラムで新しく設定された授業科目に対するテキストおよび教授方法の開発が、実際の運営に追いつかず、各科目において効果的な教授－学習活動が展開されているかどうかの疑問もある。これは担当する教師の能力との関係が深いわけであるが、教師側に、担当領域内容に対する適切なテキストがなく、準備した教育内容についての自信がないという訴えがあることから推測できる。

以上述べてきたように、インドネシアにおける看護教育プロジェクトによって、SGPのカリキュラムは、インドネシアのPK校の教師のニーズに合った教育に向かって一段前進したといえることができる。これらをふまえて、これからの方向性をあげるとすると、大きくは、SGPの教師の教育と教材作成・教育方法の開発をさらに強化することであろう。それに、SGPの教育が教育庁の教師の資格認定単位の半分しか満していないことへの問題を今後どう処理していくかということであろう。

これまで、わが国はインドネシアにおける看護教育にさまざまな形でかかわってきた。

その間に、保健省令によって、保健医療関係従事者にさらに高い能力が求められるようになった。そのため、現在1985年実施を目標に次の段階の看護教育制度とカリキュラム編成の検討が始められている。現時点での内容は、いずれも高等学校卒業後入学する大学教育レベルの5年制プログラムと3年制の看護専門教育のプログラムの2つのコースを設定するということである。それに、5年制教育卒業者には大学院のコースを、3年制卒業者に対しては専門性を強化するためのコースを設定する方針である。このような新教育体系による教育は、1985年から実施される予定であるが、2000年までは現行制度を共存させる方針である。

表A.

1976年 Study Team of Curriculum for SGP の作成				1982年 3月 SGP Curriculum 検討会で作成				
I. 一般教育 (4.5 単位)				I. 一般教育 (5 単位)				
1. インドネシア語	1		40	1. インドネシア語	1			
2. 英語	1.5		60	2. 英語	1			
3. 心理学	1		40	3. 宗教	1			
4. 社会・人類学	1		40	4. Pancasila	1			
				5. 体育	1			
II. 看護教育 (10.5 単位)				II. 基礎看護 (10 単位)				
1. 看護の introduction	1		40	1. 看護のコミュニケーション	2			
2. 地域看護(A)	1.5		60	2. 健康と疾病の概念	2			
3. 臨床看護(A)	1.5		60	3. 看護概念	2			
4. 地域看護(B)	1		40	4. 看護経過	2			
5. 臨床看護(B)	1		40	5. 看護のかかわり方	2			
6. 精神看護	1		40	III. 専門看護 (10 単位)				
7. 看護のリーダーシップ	1		40	内科・外科	C. H. N.	母性/FP	小児	精神
8. 疫学	1.5		60	・呼吸器② ・循環① ・体液・電 解質、パラ ンズ ① ・神経① ・泌尿器① ・消化器② ・代謝① ・皮膚・腎 ①	・Community の intro① ・CHN、 HC② ・in Fam- ily ① ・in Sc- hool ① ・企業① ・施設①	・助産学② ・妊産婦保 健 ④ ・分娩育助 ② ・F. Pと 婦人科②	・小児の発音 と発達 ② ・小児科 ② ・看護 ④ ・栄養 ②	・精神保健 ・看護⑤ ・リハビリ ② ・行動科学
9. 健康教育	1		40	10	10	10	10	10
III. 教授法 (6 単位)				IV. 教授法 (20 単位)				
1. 学習理論	1.5		60	1. 基礎教育	2			
2. 教育技法	0.5		20	2. 教育計画	4			
3. 評価の原理と技法	1		40	3. 教育管理	4			
4. 教授法	3		120	4. 教育評価	4			
				5. 特殊教育方法	2			
				6. 教育実習	4			



## 2. 教育内容、教授法改善の評価

DCNEにおいては、S. P. K 校における教員の質の向上並びに教育内容、教授法の改善のために5ヶ年計画で公衆衛生看護、内科、外科看護、小児看護、精神科看護および家族計画の5つの分野で、いわゆるUp Gradingコースを実施している。

このうち、内科、外科看護、小児看護、家族計画の3コースのほか視聴覚教材開発のための2週間の教育、カリキュラム検討会、看護教育テキストブック作製のためのワークショップ等数多くの講習、ワークショップがJICAの中堅技術者養成対策費で実施されている。JICAで支援した4つのUp Gradingコースは17回にのぼり330名が参加し、また、カリキュラム検討会のワークショップは7回115名が参加しており、教員の質の向上、教育内容、教授法の改善に寄与するところ大であったと思われる(資料1)

Up Gradingコースのうち、公衆衛生看護はS. P. Kの全教師がこれを受講することになっているということであるが、インドネシアの現状においては、今後とも最も力を入れなければならない分野であって、インドネシアの国情にあった実践的な教育支援も必要ではなかったかと思われる。

### 2) 教育用教材、図書等の活用

#### ① 看護実習用教材、器具等の活用

DCNEおよびS. G. P ウジュンパンダンにおいては看護実習用教材器具、視聴覚機器は十分に揃えられていると思う。S. G. P ウジュンパンダンにおいては酸素テント、未熟児用インキュベーター等については専門家が現地に行ってその使用方法等の指導も行なわれていた。これらの医療機器は、現地の看護婦は始めて見たというように現実には病院で使用されていないためにその教育が現場ですぐに生かされるというものではないが、インドネシアでは今後、小児、内外科等看護の専門化にむかうということであり、将来にむけての知識、技術の習得と考えてよいであろう。静脈注射、全身清拭、浣腸等基礎看護に使用される器具は、S. P. K 校にこれらの看護実習用器具、器材が全くないために、S. P. K 校における教育実習時にすべてS. G. P 校から持ち出されている。

解剖学、生理学関係の掛図が相当数あるが、これは説明が英語でなされているためか、殆ど活用された形跡がない。

S. G. P ウジュンパンダンに十分な教育用機器が揃えられているのに比し、Cilandakには殆んど実習用機材らしいものがないことが対比的に目立つが、ここは隣接するDCNEの機器を活用しているということである。DCNE、S. G. P ウジュンパンダンのみに教育用機器、実習用器具が整備されていることは、モデル的意味をもつにしても、他のS. G. P 及び実際に看護教育の行なわれているS. P. K にこれらが全く整備されていないために、S. G. P 校で習得した知識、技術が教育の現場でどの程度活用されているか疑問に思う。インドネシアの現状に即した身近かな教材研究、教材開発が更に今後積極的に行なわれることを

期待する。

### ② 視聴覚教材

すでに63本のビデオテープが日本語からインドネシア語にほんやくされており、10本のビデオテープがDCNEにおいて作製されている。(資料2)

スタジオは非常に立派なものであり今後ともその活用が期待される。

日本語からほんやくされた基礎看護は画面の字が日本語のままでインドネシア語の説明が加えられていないために理解しにくい。これらのテープは、SGP、SPKに貸出され活用されているようであるが、内容については先に述べた教材と同様、インドネシアの国情に即したオリジナルなものが作製される必要がある。

### ③ 図書

SGPウジュンパンダンにおいて附300冊の図書のうち70%が英語、30%がインドネシア語の本ということである。学生のうち英語を本を読解出来る者は1~2%ということから考えると実際に活用出来るものはすくない。

更に図書の利用が図書室に限定されているにもかかわらず図書室に学生の利用出来る椅子がないなど読書環境が整備されていない。椅子を用意すると共に、図書ラベル、貸出しカードをつける等、貸出しによる利用をはかるとともにその利用頻度の把握が出来るような基本的な図書管理を指導する必要がある。

テキストブックの作製は活用出来る図書のすくないSGP、SPK校において非常に喜ばれていた。特にFundamental Nursingが専門家の援助によりインドネシアの看護婦のワークショップによってまとめられたことは喜ばしいことである。ほんやくには質的、量的な限界があり、DCNEの支援によって、今後計画的にインドネシア語によるテキストブックが開発されることを期待する。

現在17種のテキストブックが作製されているが、これを各校に配布するための手段、費用が困難であるということを開いたが考慮してほしい。(資料3)

## 3. インドネシア側実施体制

本プロジェクトは、わが国がインドネシアのヘルスマンパワーの質的量的確保のために協力するものである。具体的には、保健看護婦の教員養成に重点をおき、④-無償資金による建物の建設、⑤-教育内容の充実強化を図るための技術協力を実施し、更にはこの技術協力をより有効にするために、⑥-中堅技術者養成対策費を投資しインドネシア側の自助努力推進を行うという、④⑤⑥三つの併合システムプロジェクトである。

無償による建物の建設は、ジャカルタに、看護教育開発センター(D. C. N. E)、ウジュンパンダンに看護教員養成校(S. G. P.)を新築し、昭和56年3月にインドネシア側に建物の引き渡しが行われ、それぞれが機能を発揮している。

資料 1. Upgrading Course 及び Working Group 実施状況

1) Upgrading Course

Year	Subject	Duration	Member
1979/1980	1. Pediatric Nursing	6 wks	20
	2. Med/Surg. Nursing	6 wks	20
1980/1981	1. Pediatric Nursing	6 wks	20
	2. Pediatric Nursing	6 wks	20
	3. Med/Surg. Nursing	6 wks	20
	4. MCH/FP Nursing	6 wks	20
	5. Med/Surg. Nursing	6 wks	20
1981/1982	1. AVA Course	2 wks	15
	2. AVA Course	2 wks	15
	3. Med/Surg. Nursing	6 wks	20
	4. Pediatric Nursing	6 wks	20
	5. MCH/FP Nursing	6 wks	20
1982/1983	1. AVA Course	2 wks	20
	2. Med/Surg. Nursing	6 wks	20
	3. Med/Surg. Nursing	6 wks	20
	4. Pediatric Nursing	6 wks	20
	5. MCH/FP Nursing	6 wks	20
Total	17 times		330 Members

2) Working Group

Year	Subject	Duration	Member
1979/1980	1. Senior Nursing Course	4 days	10
	2. AKTA III Curriculum	4 days	16
1980/1981	1. Diploma I, II Curriculum	4 days	15
	2. Diploma III Curriculum	5 days	16
1981/1982	1. Teaching Materials	10 days	28
	2. SGP Curriculum	10 days	20
1982/1983	1. Text Book (Fundamental Nursing)	7 days	10
Total	7 times		115 Members

1) The list of Video Tapes which were translated in Indonesia

1. Nursing care of Neonatal I.
2. Nursing care of Neonatal II.
3. Nursing in Incubator I.
4. Nursing in Incubator II.
5. Tube feeding.
6. Suction I.
7. Suction II.
8. Aseptic techniques of hands.
9. Oxygen therapy.
10. Prasoitosis.
11. Infection disease.
12. Assessment of disturbance.
13. Assessment of constitution behavior and appearance.
14. Mouth care by it's self.
15. Mouth care for clitical patient.
16. Mouth care for false teeth.
17. Skin and mucous membrane.
18. The skin damaged.
19. Shampoo I (equipment)
20. Shampoo II (on the bed)
21. Bed bath equipment.
22. Bathing face.
23. Bathing upper extremities.
24. Bathing neck and breast.
25. Bathing abdomen.
26. Bathing lower extremities.
27. Bathing foot.
28. Bathing back and perineum.
29. Aseptic technique.
30. Nursing for first aid at out patient clinic.
31. Body mechanics.
32. Injection.
33. Compress.
34. Puncture I.
35. Puncture II.

36. Resuscitation.
37. Assessment of color of the skin.
38. Nursing of the hemiplegia I.
39. Nursing of the hemiplegia II.
40. The structure and function of human body.
41. The structure and function of digestive system.
42. The structure and function of respiratory system.
43. The structure and function of cardiovascular system.
44. The structure and function of urinal system.
45. The structure and function of endocrine system.
46. The structure and function of genital system.
47. The structure and function of nervous system.
48. The structure and function of sense system.
49. The structure and function of skeletal muscle system.
50. Etiology I.
51. Etiology II.
52. Diseases of digestive system and nursing I.
53. Diseases of digestive system and nursing II.
54. Diseases of respiratory system and nursing.
55. Diseases of cardiovascular system and nursing.
56. Diseases of urinal system and nursing.
57. Diseases of genital system and nursing.
58. Diseases of nervous system and nursing.
59. Diseases of sense system and nursing.
60. Diseases of metabolic system and nursing.
61. Diseases of skeletal muscle system and nursing.
62. Venereal disease.
63. Psychiatric medicine.

2) The List of Video Tapes which has been produced in DCNE

1. How to take a Electro cardiography.
2. Intravenous injection.
3. How to cut the umbilical cord.
4. How to take a body temperature.
5. Nursing care in ICCU.
6. Nursing care in Burn Unit.
7. Tube feeding.
8. Home visit for new born baby.

9. Community Health Nursing - Nursing Process.
10. Stomach lavage - Nursing Process.

資料 3. 印刷した参考図書

The Title of Printed Books

Year	Name of Book	Amount
1980/1981	1. Nursing care of Newborn baby and Infant	2,000 pieces
	2. Taking care of school children	2,700 "
	3. Nursing care of Child at Tropical Area	2,000 "
	4. Stress	1,000 "
	5. Training of Community Health Nursing	1,000 "
	6. Family Planning	2,000 "
	7. Nursing care of Patient with Surgical Problem	2,000 "
	8. Curriculum Guidance of Pediatric and MCH Nursing	1,000 "
1981/1982	1. Curriculum for Health Nurse School (Module)	1,000 "
	2. A Guide for Teachers of Nurse	3,000 "
	3. Nursing care of Patient with Medical Problem	3,000 "
1982/1983	1. Current Perspective in Nursing Education	3,000 "
	2. Curriculum for Teacher Training School	1,500 "
	3. Nurse-Client interaction	1,500 "
	* 4. Synopsis of Fundamental Nursing	1,500 "
	5. Curriculum for Health Nurse School	1,000 "
	6. National Health System	600 "
Total	17 kinds	29,800 pieces

\* original

一方、主要協力である技術協力については建物竣工以前から、日本側専門家の派遣、インドネシア側研修員の受け入れなどを開始し、協力目標に沿って、看護教育カリキュラム開発、看護教育方法の改善、看護教育教材の開発などの活動をしてきた。

従って、部分的には未解決の問題や、新しく検討してゆくべきこともあるが、大目標に近づいていることは事実である。これも日本側、インドネシア側のこのプロジェクトに対する期待と努力のたまものといえよう。

以下、D. C. N. E. とウジュンバンダンSGP校に分けて評価をまとめてみたい。

1) 看護教員開発センター：D. C. N. E. (Development Center for Nursing Education)

D. C. N. E. は、インドネシア保健省の教育訓練センター (Center for Education and Training, Ministry of Health-C. E. T. ) 直属の看護教員養成の指導、教育技術の開発、研究などを行う機関であり、インドネシアの看護教育全般に関する開発センターといえることができる。

① 組織機構について

建物が完成して約2年3カ月が経過したが、徐々に組織も充実してきており、看護職の所長のもと、職員44名(看護職員10名を含む)が所期の目的に沿って活動している。

しかし、看護職を17名にしたいという当初の構想にはまだ量的にも質的にも至っておらずインドネシア側の一層の努力を期待したいところである。

なお、D. C. N. E. はC. E. T. で決定されたものを実施する機関として考えられているが、その機能には両者の機関の責任分担が明確でない部分もあり、今後のD. C. N. E. の組織強化が組織の確立を促してゆくものと判断した。

② 機能について

D. C. N. E. は看護教育開発に大きな役割を果たすよう16項目にわたる機能を設定しているものの、日本側が本プロジェクトの主要協力項目に掲げたものについては非常に活発になされているが、その他の項目は殆んど手がつけられていない現状である。具体的に16項目を○×式で分類してみると以下のようになる。

- ① カリキュラムガイダンスの作成、検討
- ② 教授方法の研究指導
- ③ 教材の開発、指導
- ×④ 教育評価と研究
- △⑤ 看護教育計画の評価
- △⑥ 看護教育全般に関する調査、研究
- ⑦ 臨床専門技術の指導、訓練並びに知識の教授
- ⑧ 現任教育

- ① 研修、研究会の実施
- ② 同書類の整備、開発
- △③ 看護学校管理の指導、監督
- ×④ 地域における保健の実態調査、研究
- ×⑤ 報告と記録制度の確立
- ×⑥ 看護学校の認定基準
- ×⑦ 国家試験制度および登録制度に関する調査研究
- ⑧ 各種委員会活動

こうした機能は、専門家の協力によるところが大きく、教材開発は17種（内インドネシア側独自の執筆によるもの1種）29,800冊、ビデオテープ作成72本、更に中堅技術者養成対策費協力による講演会（現任教育）15コースの開催といった実績に結びついていることは高く評価すべきである。今後はこうした各種活動を体系的に整理してゆく必要がある。

その他、施設の活用は図書室、A. V. ルーム、実習室などを中心に保健看護婦学校（S. P. K.）、アカデミー校、教員養成校の関係者をはじめ、病院看護婦やパラメディカルの他の職種の人たちにまで及び非常に有効的に行われている。

### ③ 建物の保守管理について

保安上の問題として近くの人が自由に出入りして困るなどということもあったようだが、階段昇降口に鉄格子を作ったり、外回りの塀を高くするなどしてそうした問題は解消しているようである。しかし、維持管理費の制約があり、電気料金の滞納による送電中止などの現象が起り運営上支障を来すこともあるようで、今後の予算措置の確保に加えて管理運用の強化が望まれる。

## 2) ウジュンパンダン教員養成校

標記校はインドネシアの保健看護婦養成校の教員養成のための4つの学校のひとつとして、建物を日本側が新築し、教員養成校のモデル的存在にしようという意見で本プロジェクトの大きな柱として考えられたものである。

### ① 組織機構について

D. C. N. E. と同じ昭和56年3月にインドネシア側に新校舎が引き渡されたものの、地域性もあって組織的にもまだ多くの問題を残しているようである。例えば職員は26名もいるが、うち看護教員は4名、看護教員助手3名で構成されており、看護職の校長は1年以上前から転勤の話があり腰が浮き上っているという状態で、特に学校管理的にはこれからの感がある。しかも有力な看護教員の2名（日本へ長期研修に来た人たち）が本年8月から2年間大学へ編入するために空席になるというのは一層不安なことである。

② 機能について

新校舎、新宿舍は2年目の学生を卒業させようとしている。昨年は33名の卒業生のうち22名がS. P. K. の教員となり、あとの11名は病院、保健所で活躍しているという。本年度の学生は改革された新カリキュラムで教育されたが、教員たちの話しでは90%は教育目標は達成できたという。

新校舎の施設内活用としては、自校の学生だけでなく、地域のS. P. K. やアカデミー校などの校内実習の場として提供されるのをはじめ、講習会や地域の母親学級、家族計画や栄養指導など多面的利用がなされ、地域のプライマリ・ヘルスケアの教育の場となっていることは評価できる。

しかし、各教室とも椅子の不足が目立ち、使用上の困難が問題となってから久しい、という欠陥もある。

一方、技術移転という面では、日本側専門家やウジュンパンダン校の担当教師は、常駐して協力活動をすることを希望していたがCETとしてはその必要を認めなかったため十分でなく今後の残された問題である。

③ 建物の保守管理について

建物の保守管理はD. C. N. E. に比し十分とはいえない。特に環境として飲料水がない、電話が通じない、電気代がかかり過ぎて払えないので送電中止となることが多い、など大きな問題が未解決のままになっている。

3) インドネシア側の本プロジェクトに対する経費支出実績

Indonesian counter budget for OTA-62

year	Total amount	Item	amount
1980/1981	Rp 119,362,000	- Furniture, auxiliary in DCNE & SGP Ujung Pandang	Rp 119,362,000
1981/1982	Rp 135,760,000	- Auxiliary facility & AVA material	Rp 86,650,000
		- Teacher training course	Rp 36,210,000
		- AVA course	Rp 7,900,000
		- Handling cost	Rp 5,000,000
1982/1983	Rp 15,740,000	- Teacher training course	Rp 15,740,000
1983/1984	Rp 5,245,000	- Senior nursing course	Rp 2,095,000
		- Working group	Rp 1,575,000
		- AVA course	Rp 1,575,000
Total	Rp 276,107,000		

また、上記以外に日本人専門家の活動に対し、インドネシア国政府はこれまで国内旅費（航空賃）及び公用車のガソリンを2,400L（2台分）/1ヶ月を支給してきたが、58年3月のルピア貨の切下げに伴い、航空賃については58年4月より支給されておらずまた、ガソリンについては58年6月より1,600Lに削減されている。

#### 4. 帰国研修員の活動、評価

現在までに、長期・短期研修員の受け入れは14名に達している。（長期8名、短期6名）

1名の配置転換による所属変更があったのみで、帰国後は各出身施設にもどり日本での研修を生かして活躍している。今までに来日した研修員の専門分野別人数は、

小児看護 2名、 内・外科看護 4名、 A. V. A. テクニシャン 2名、  
教育管理 3名、学校管理 3名、 という内訳である。

現在のS. G. P. が5つの専門看護（小児看護、母性看護、内・外科看護、地域看護、精神科看護）に分かれて教育されるようになったからには、母性看護、精神科看護、地域看護など今まで含まれていなかった分野からの研修員の派遣をすることが望ましい。

##### ① 研修員派遣元の評価

ことばの問題はあったものの、帰国後は研修を生かして活躍している。特に実務レベルの指導力には素晴らしいものがある。望むらくは、臨床看護技術の習得に管理面の研修も加えてほしい、ということであった。

##### ② 研修員自身の評価

日本から帰って学生を指導するのに自信がついた、技術面の習得はもちろんであるが看護婦の意識や他のパラメディカルスタッフとの連携、記録物の管理など机上で得られない多くのものを得ることができた、という自己評価である。

##### ③ 本チームの評価

研修員は本プロジェクトを推進するためのカウンターパートの役割を十分認識し、かつ学んだものをよく生かして技術移転の先端者になっている。しかし、長期間日本で学んだことに対してCredit 加算や昇格、昇給など正式の認定措置が構じられていないので、今後そうした処置がなされるようイ側の配慮を要望したい。

#### 5. 日本側専門家に対する評価

現在までにJICAが派遣した専門家は短期、長期含めて7名（長期5名、短期2名）となる。

専門家によってプロジェクトの成否が決まるといわれるほど、専門家の役割は重要であり、また困難な仕事である。幸いにも専門家各人の能力と努力に加えて、チームとして協調しながらインドネシアに正しくとけ込みながら推進してこられたことが、看護教育プロジェクトが日

本にとって新しい分野にもかかわらず内外の高い評価を受けるにいたっている証拠ともいえよう。

① 専門家が行っている主な業務

- ① 教員養成校およびS. P. K. カリキュラム改善にあたっての助言
- ② 教員養成校の教員ならびに講習会参加者に対する指導、助言
- ③ 教員養成校の学生の教育・臨床実習時の指導
- ④ D. C. N. E. ならびにウジュンパンダン教員養成校における供与機材の使用法、実習用教材の利用、促進についての助言
- ⑤ 教材作成時の文献の選択についての助言
- ⑥ V. T. R. テープ作成時の援助
- ⑦ 実習用教材、図書等の管理に対する援助
- ⑧ 供与機材要請にあたっての助言
- ⑨ 現地調達機材購入についての協力
- ⑩ 研修員候補者への助言
- ⑪ 各種講習会への参加助言

② インドネシア側の専門家に対する評価

イ側の専門家に対する評価は非常に高い。特に臨床実習指導、教材作成、各種講習会に対する助言などは有効だという。

③ 専門家の自己評価と今後の抱負

現在D. C. N. E. に籍を置き、吉田谷専門家はバンドン、チランダック校、沢田専門家はウジュンパンダン、スラバヤ校と分担して巡回指導に回っているが、いずれも専門家が訪問しないと機能がとどこおりがちになることも多く、期待される度合いが大きいだけに、自助努力の不足が心配になるようである。

先ず自分の健康管理を大切にしながら、イ側のニーズと日本側の方針の枠内でいかにスムーズにことを運ぶかのコツを知るのには2年かかるともいう。

技術移転は形になって見えない部分が多いが、イ側独自で1冊の本を作りあげるまでに至った成果を専門家の喜びとしている様子を見てその協力過程を推察することができた。

残された期間に、ウジュンパンダン校の充実と新カリキュラム評価、教材開発に対するイ側努力の方向づけなど、やりたいことが多くあるという。日本の国内的支援もより強化する必要がある。

## 6. 供与機材の活用、管理状況

供与機材は、教育機材（視聴覚器材、図書を含む）、看護用具、その他事務器材や車輛などに大別される。

D. C. N. E. では上記のいずれも非常に良く活用され、管理的にも台帳の整備など行き届いていた。

ウジュンパンダン校では活用面でも D. C. N. E. ほど十分でなく、一部日本語の説明などのほん訳作業が残されている。しかし、専門家の努力により、ベッドのシーツを調達したり、モデル人形の着物を縫製したり、模型のカバーを作成するなど管理面の協力のあとは随所にみられた。今後も管理運用面の指導協力がなお一層必要であろう。

一方、初年度に供与された専門家のための日本語図書についてプロジェクト終結時の処理が専門家の間で頭のいたむ問題だという。

いずれにせよ両施設とも活用されているものの、イ側の同情もあって鍵による管理が徹底し過ぎて活用面の有効性が減少しているように思ったが、これは日本人の尺度というものだろうか。

## 7. インドネシア側のプロジェクト評価

### NURSING EDUCATION PROJECT

OTA-62

### EVALUATION FROM INDONESIAN SIDE

#### COMPONENTS.

- A. Development of Curriculum
- B. Development of teaching materials
- C. Upgrading Courses
- D. Fellowships
- E. Equipments
- F. Experts

#### A. Development of Curriculum.

##### I. Akta III And Diploma I, II, III curriculum.

- a. Curriculum for Akta III and Diploma I, II, III were produced in 1980 through working group.
- b. JICA provided assistant as follow :
  - 1. Travel and perdiem for participants living outside Jakarta.
  - 2. Stationary
  - 3. Printing

##### II. Nursing Teacher's Curriculum (SCP).

- a. The curriculum on nursing education has been developed through the process of working group, workshop or seminar.
- b. The latest SCP Curriculum was produced in March 1982 through 6 days workshop in Ujung Pandang.
- c. JICA experts participated in the workshop.
- d. The printing of SCP curriculum was assisted by JICA. Complete implementation of the curriculum will be started in 1983/1984 academic year.
- e. The development of curriculum should be continuously carried out and adjusted to the national concept and pattern of nursing education and training.

Financial support assisted by JICA has been very helpful for the development of nursing teacher's programme and more ideas (software) are still needed from JICA experts.

## B. Development of Teaching Materials.

### I. Books.

- a. JICA provided assistant for translation, writing and printing. Through this assistant 17 titles of books has been produced.
- b. The published books have been distributed to SGP's, SPK's and Academic of Nursing institutions throughout Indonesia.

Since the translated books are not easily readable, potentials nurses should be motivated to, write basic text books in Indonesian. The publication of nursing books should be increased and strengthened in the future.

Provision of nursing books is very important to be utilized as bibliography and references by potential Indonesian nursing writers.

### II. A.V.A.

- a. 9 video on nursing have been produced in Indonesian language and in Indonesian settings covering Health Centres and Hospitals.
- b. 63 video tapes on nursing in Japanese have been translated into Indonesian.
- c. The studio has been utilized effectively for micro teaching by SGP's regular programme and by the participants of various upgrading courses as well.

Although the AVA studio has been utilized, the utilization has not really reached the outcomes as previously expected.

Certain steps should be taken to strengthen the professional aspects of AVA production in which the ability of scenario writing connected with the needs of curriculum is of paramount important.

## C. Upgrading Courses

- a. There have been various upgrading courses and workshops implemented with the assistant from JICA, this could be mentioned as medical-surgical nursing courses, pediatric nursing courses, workshop on curriculum development etc.

- b. The assistants have been utilized as effectively as possible but is still need to be improved.

It might be better if Japanese side (JICA) could allocated financial assistant for the whole package of certain upgrading course instead of providing only travel cost for several courses. This will help eliminate financial administrative problems for Indonesian side.

Professional/technical inputs from Japanese Experts have been very helpful, but it needs more elaboration for the future.

The technical assistant given by WHO nursing experts have also been helpful in the implementation of various upgrading courses.

#### D. Fellowships

During the period of four years the fellowship programme has been utilized as follow :

1. Pediatric nursing 2 persons.
2. Medical surgical nursing 4 persons.
3. A.V.A programming and technical aspect 2 persons.
4. Administration of nursing education 3 persons.
5. School of nursing administration 3 persons.

The fellowship programme has helped the fellows to gain knowledge, experience and skills. This is due to the active participation of the fellows in the planning and preparing of schedule for individual learning experience based on the individual needs.

The fellows have learned to correlate the advanced technology with nursing practice within as a specific patterns of Japanese Culture.

In addition to the above mentioned advantages, it is felt that certain weaknesses, are also found such as :

- a. Lack of mastery of Japanese language for daily and academic use.
- b. In certain cases the nursing practical experience in the hospital seemed to be longer to the education and teaching experience.

To minimize those previously mentioned weaknesses the following approaches may be used :

- a. Provision of learning package which could be used by fellowships candidates to learn daily communication and academic Japanese language before fellows leave for Japan.

b. Experience in nursing practice for fellows should be arranged in such a way as to support the fellows ability in teaching.

It is felt that fellowship programme for nurse teachers (SGP teachers) should be continued and additional nursing areas should be included such as community health nursing, mother and child health and family planning.

#### E. Equipments

All the equipment provided by JICA (Project CTA-62) which directly support the teaching learning process, as well as those equipments which support the development of nursing education have been helpful both for D C N E and H N T S.

The equipments could be classified as fello :

1. Teaching equipments
2. Nursing equipments
3. Office equipments

Problems which have been faced in realition to the above mentioned equipments are shortage and unavailability of spare parts and service/repair manuals particularly for electronic equipments.

It is felt that spareparts and service manuals need to be available for better maintenance of equipments including those equipments to be used for repair such as vector scope. Vacume tube voltmeters (VTUM).

#### F. Experts

Collaboration between JICA experts and Indonesian side has been effective.

Personal and functional realitionships have been nicely maintained throughtout the years.

JICA experts have assisted mainly in the field of teaching actual nursing practice.

It is felt therefore, that the input for the concept development in nursing education could be strengthened by the experts.

It is also felt that one JICA expert could be assigned to HNTS Ujung Pandang and she could stationed there during her assignment on a long term basis.

This assignment aims to develop HNTS in order to fully function as institution which hopefully could produce better teachers in nursing.

Jakarta, June 17, 1983

Development Center for nursing  
Education.

## V 総合評価と提言

以上のように看護教育プロジェクトは今日までR/Dにもとずきさまざまな活動を行ってきたが、これらの活動は単に看護教員の養成にだけでなく、SPK、アカデミーを含めたインドネシアの看護教育全体のレベルアップに大きく貢献するものであったことが認められた。

またインドネシア側においてもプロジェクトの活動がいずれもインドネシアの保地開発計画にマッチしたものであり、着実に成果をあげてきていることに対して高い評価をしていることが実証できた。

しかしながら総合的にみて現在ではこれらの活動が軌道にのったとは認めがたい状態であり、今後より発展充実させるためには、さらに関係者の努力が続けられる必要があると思われる。

インドネシア側は次の諸点について改善に努める必要がある。

### (1) DCNEの機能強化について

DCNEの機能の強化拡充をはかると同時に、教員養成校との関係を明らかにする必要があること

### (2) DCNEの人材強化について

今後はDCNEが中心となって高度改善にかかわる教材開発、教育方法の改善、教育養成校その他への技術指導等を推進する必要がある。このためにはDCNEに指導者として適任な人材を強化する必要があること

### (3) テキスト・視聴覚教材の開発について

日本人専門家の努力によりテキスト・視聴覚教材がつけられたが、今後はインドネシア側スタッフにより自国に適したものが開発される必要がある。DCNEのスタッフ、外国留学の経験のある教員、大卒の教員等が中心となってこの活動をひきつぐ必要があること。

同時に学生に直接教材やテキストに触れさせるよう努める必要があること。

### (4) 研修生の活用について

日本からの研修生はそれぞれの地で研修の成果をあげている。学んできた各専門分野の技術や知識を他校の教員にも伝達する必要がある。伝達講習会の開催、巡回指導などについても検討する必要があること。

また今後の教員資格との関連で、研修生のうけた研修を必要な単位に換算するなど優遇措置についても検討する必要があること。

### (5) SGP教員の資格要件の明確化について

SPK教員の資格は明らかとなっているがSGP教員の資格はきめられていない。専門分野ごとの教育もは定められていることもあり、SGP教員についても資格要件を明らかにする必要があること。

(6) ウジュンバンダン校の維持運営について

ウジュンバンダン校については水、電気、電話等校舎の維持・運営に関する問題が依然解決されていない。これらについてはインドネシア側の努力によって早急に改善される必要があること。

また、近く複数の、しかも主要な教員の異動が計画されているとのことであるが、教育の充実、教材の有効活用に支障を来さないより早急に適任の教員の充足につとめるべきであること。

以上、いくつかの点を指摘したが、これまでのインドネシア側の誠意ある対応をみれば、今後多少の時間はかかっても改善の方向にむけて努力してくれるものと期待している。

さらに本チームとしては、ウジュンバンダン校と同時に他の3教員養成校へも機材供与が行われていれば、一段とこのプロジェクトの成果が上がったにちがいないという認識を強くもったことも申し添えておきたい。

なおJoint Committeeの席上、CBTの所長Dr.ハブノロから計画中の第4次国家衛生開発計画案の中で、教育訓練、とくに看護要員の確保については今後もインドネシアの重点課題となること、この計画達成のためには外国からの援助が必要であること、本プロジェクトが今後もひきつづいて援助をつづけてくれることを望むとの意見表明があった。事務的には目下正式なプロジェクト延長の要請が提出されるはこびとなっているとの情報もあるが、具体的な援助内容については一切提示がなかった。

本チームとしては、すべての活動がまた十分に動いていない現段階には若干の延長は望ましいものと考えるが、その場合にも本チームの指摘にインドネシア側がどう対応できるかを確認し、さらに要請内容を検討する必要があると思われる。

最後にプロジェクトの成功のカギは、プロジェクトをすすめるのに適任な人を得られるか否かにかかっていることを改めて痛感した。今日の成果をもたらした両国の関係者、とくに長期専門家の方々の努力に心から敬意を表する次第である。

1983年6月19日

看護教育プロジェクト

評価チーム

## VI. 資 料 編

資料 1.

(1) 討議議事録 ( R / D ) と議事録 ( Minutes )

THE RECORD OF DISCUSSIONS BETWEEN  
THE JAPANESE IMPLEMENTATION SURVEY TEAM  
AND  
THE AUTHORITIES CONCERNED OF  
THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF INDONESIA  
ON  
THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION FOR  
THE NURSING EDUCATION PROJECT

The Japanese Implementation Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as JICA) and headed by Professor Haruo Katsunuma, Vice President of Kyorin University and Professor Emeritus of the University of Tokyo, visited the Republic of Indonesia from October 22nd to November 3rd, 1978 for the purpose of working out the details of the technical cooperation program concerning the Nursing Education Project in the Republic of Indonesia.

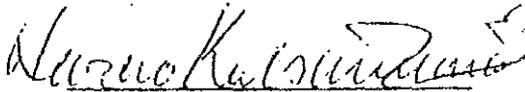
During its stay in the Republic of Indonesia, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Indonesian authorities concerned in respect of the desirable measures to be taken by both Governments for the successful implementation of the above-mentioned Project.

As a result ...

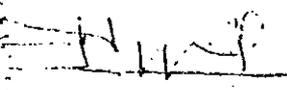
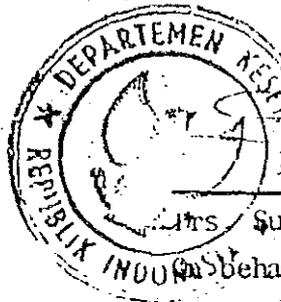
As a result of the discussions, the Team and the Indonesian authorities concerned agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the document attached hereto.

November 3, 1978.

Jakarta, Indonesia.



Professor Haruo Katsunuma  
Lead of the Japanese  
Implementation Survey Team



Mrs. Sutia Anggadihardja  
On behalf of Secretary General,  
Acting Director of the Center  
for Education and Training  
Ministry of Health.

## THE ATTACHED DOCUMENT

### I. COOPERATION BETWEEN BOTH GOVERNMENTS

1. The Government of Japan and the Government of the Republic of Indonesia will cooperate with each other in implementing the Nursing Education Project (hereinafter referred to as "the Project") for the purpose of the development of nursing education in the Republic of Indonesia.
2. The Project will be implemented in accordance with the Master Plan which is given in Annex I.

### II. DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS

1. In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to provide at its own expense services of the Japanese experts as listed in Annex II through the normal procedures under Colombo Plan Technical Cooperation Scheme.
2. The Japanese experts referred to in 1. above and their dependants will be granted in the Republic of Indonesia the privileges, exemptions and benefits no less favourable than those accorded to experts of third countries assigned in the Republic of Indonesia under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme, and will include the following :

- (1) Exemption from income tax and charges of any kind imposed on or in connection with project salary and allowance remitted from the Government of Japan;
- (2) Exemption from import and export duties and any other charges imposed in respect of personal and household effects which may be brought into from abroad or taken out of the Republic of Indonesia;
- (3) Exemption from import tax, import sales tax, sales tax, and other taxes imposed on or in connection with the purchase in the Republic of Indonesia by the Japanese Experts of one motor vehicle per each expert; and
- (4) Free medical services and facilities to the Japanese Experts and their dependants in government dispensaries and hospitals.

### III. PROVISION OF MACHINERY AND EQUIPMENT

1. In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to provide at its own expense such machinery, equipment and other materials necessary for the implementation of the Project as listed in Annex III, through the normal procedures under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme.
2. The articles referred to in 1 above will become the property of the Government of the Republic of Indonesia upon being delivered c.i.f. to the Indonesian authorities concerned at the ports and/or airports of disembarkation, and will be utilized exclusively for the implementation of the Project in consultation with the Japanese experts referred to in Annex II.

### IV. TRAINING OF INDONESIAN PERSONNEL IN JAPAN

1. In accordance with the laws and regulations in force in Japan,

the Government of Japan will take necessary measure through JICA to receive at its own expense the Indonesian personnel connected with the Project for technical training in Japan through the normal procedures under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme.

2. The Government of the Republic of Indonesia will take necessary measures to ensure that the knowledge and experience acquired by the Indonesian personnel from technical training in Japan will be utilized effectively for the implementation of the Project.

#### V. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF INDONESIA

1. In accordance with the laws and regulations in force in the Republic of Indonesia, the Government of the Republic of Indonesia will take necessary measures to provide at its own expense:
  - (1) Services of the Indonesian counterpart personnel and administrative personnel as listed in Annex IV ;
  - (2) Existing land, buildings and facilities as listed in Annex V ;
  - (3) Supply or replacement of machinery, equipment, instrument, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than those provided through JICA under III above ;
  - (4) Transportation facilities and travel allowance for the Japanese experts for the official travel within the Republic of Indonesia;
  - (5) Furnished existing accommodations for the Japanese experts and their dependants.

2. In accordance with the laws and regulations in force in the Republic of Indonesia, the Government of the Republic of Indonesia will take necessary measures to meet:

- (1) Expenses necessary for the transportation within the Republic of Indonesia of the articles referred to in III above as well as for the installation, operation and maintenance thereof;
- (2) Customs duties, internal taxes and any other charges, imposed in the Republic of Indonesia on the articles referred to in III above ;
- (3) All running expenses necessary for the implementation of the Project.

#### VI. ADMINISTRATION OF THE PROJECT

1. The Japanese experts will give necessary technical guidance and advice to Indonesian staff associated with the Project pertaining to the implementation of the Project, and the Indonesian authorities concerned will be responsible for the administrative and managerial matters pertaining to the Project.
2. For the successful implementation of the Project, the Joint Committee will be established with the members as listed in Annex VI.

#### VII. CLAIMS AGAINST JAPANESE EXPERTS

The Government of the Republic of Indonesia undertakes to bear claims, if any arises, against the Japanese experts engaged in the Project resulting from, occurring in the course of, or otherwise connected with the discharge of their official functions in the Republic of Indonesia except for those arising from the willful misconduct or gross negligence of the Japanese experts.

#### VIII. MUTUAL CONSULTATION

There will be mutual consultation between the two Governments on any major issues arising from, or in connection with this Attached Document.

#### IX. TERM OF COOPERATION

The duration of the technical cooperation for the Project under this Attached Document will be five years from November 3, 1978.

## ANNEX I

### MASTER PLAN

The Government of Japan will cooperate with the Government of the Republic of Indonesia in carrying out the Nursing Education Project with particular reference to the training of teaching staff in nursing education through dispatch of Japanese experts, acceptance of Indonesian personnel for training in Japan and provision of equipment.

The Project is intended to take up the following activities for the further development of the total nursing education system in the Republic of Indonesia.

- (1). Improvement of curriculum for nursing education.
- (2). Improvement of teaching methodology for nursing education.
- (3). Improvement of other fields of nursing education mutually agreed upon as necessary.

ANNEX II

JAPANESE EXPERTS

1. Expert in nursing education (general)
2. Expert in clinical nursing
3. Expert in public health nursing
4. Expert in education media preparing
5. Expert in nursing school administration
6. Other experts mutually agreed upon as necessary.

Note : One of the experts will be nominated as Team Leader.

ANNEX III

LIST OF ARTICLES

Machinery, equipments, vehicles and other materials for the nursing education.

ANNEX IV

LIST OF INDONESIAN STAFF

1. Project Director (Director of the Center for Education and Training, Ministry of Health).
2. Project Manager.
3. Counterpart personnel to the experts.
4. Clerical and service personnel such as typists, clerks, drivers, etc.
5. Other personnel mutually agreed as necessary.

ANNEX V

LIST OF LAND, BUILDINGS AND FACILITIES

The Government of the Republic of Indonesia offers existing land, buildings and facilities enough to the Project.

ANNEX VI

COMPOSITION OF THE JOINT COMMITTEE

Chairman : Project Director

Indonesian side

Japanese side

- |  |  |
|--|--|
| 1. Project Manager                               | 1. Team Leader   |
| 2. Counterparts                                  | 2. Experts   |
| 3. Other personnel appointed<br>by the chairman. | 3. Representative of<br>Japan International<br>Cooperation Agency. |

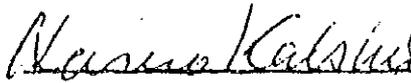
Note :

Official of the Embassy of Japan may attend the  
Joint Committee as observer.

The Japanese Implementation Survey Team and The Acting Director of the Center for Education and Training, Ministry of Health of the Republic of Indonesia have jointly formulated, with reference to the attached document of the Record of Discussions between the Japanese Implementation Survey Team and the authorities concerned of the Government of the Republic of Indonesia on the Technical Cooperation of the Nursing Education Project, the tentative schedule of the Project as annexed hereto.

November 3, 1978

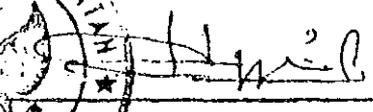
Jakarta, Indonesia



Professor Haruo Katsumuma

Head of the Japanese  
Implementation Survey Team



  
Mrs. Lita Anggadiahardja  
on behalf of Secretary General,  
Acting Director of the Center  
for Education and Training  
Ministry of Health

M I N U T E S

O F

THE CONSTRUCTION PROGRAM OF THE NURSE EDUCATION FACILITIES  
IN UJUNG PANDANG AND JAKARTA  
THE REPUBLIC OF INDONESIA

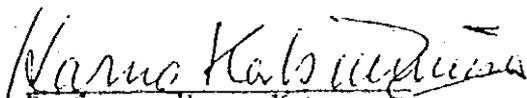
At the request of the Government of the Republic of Indonesia for assistance in establishing the NURSE EDUCATION FACILITIES in Ujung Pandang and Jakarta (hereinafter referred to as "The Facilities"), the Government of Japan through Japan International Cooperation Agency (JICA) has sent a twenty five days survey team headed by Professor Haruo KATSUNUMA (Vice-President of Kyorin University and Professor Emeritus of the University of Tokyo) to conduct the Basic Design Survey on the program from October 22, 1978. The team held a series of discussions and exchanged views with the Indonesian Authorities concerned on the establishment and construction of the Facilities.

Draft Final Report will be expected to be submitted to the Indonesian Authorities in February 1979.

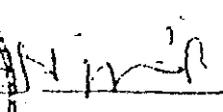
As a result of the survey and discussions, both parties have agreed to recommend to their respective Governments to take the necessary measures toward establishing the Facilities as stated in the Minutes attached herewith.

November 3, 1978

Jakarta, Indonesia

  
Professor Haruo Katsumuma  
Head of the Japanese  
Basic Design Survey Team



  
Dr. G. La Anggadlihardja  
On behalf of Secretary General,  
Director of the Center  
for Education and Training  
Ministry of Health

## MINUTES

1. The Facilities to be established will be composed of "The Health Nurse Teacher School" (hereinafter referred to as the HNTS) in Ujung Pandang and "The Development Center for Nursing Education" (hereinafter referred to as the DCNE) in Jakarta.
2. The proposed site for the HNTS will be located at Tidung in Ujung Pandang, South Sulawesi Province. The land of the site is now the property of private owners, but the local government promised and the Indonesian Authorities concerned confirmed that the land shall be made available for the HNTS before the beginning of the next fiscal year.
3. The proposed site for the DCNE will be located at Cilandak in Jakarta. The land is the property of the Ministry of Health.
4. The outline description of the HNTS in Ujung Pandang and the DCNE in Jakarta is attached in Annex I.
5. The Government of Japan will take necessary measures to provide such buildings and equipment for the Facilities as listed in Annex II.
6. The Government of Indonesia will take necessary measures as follows :
  - 6-1 To secure land for the Facilities
  - 6-2 To clear and level the sites before the start of the construction of the Facilities.
  - 6-3 To construct and/or improve access roads to the sites before the start of the construction of the Facilities
  - 6-4 To provide such items necessary for the Facilities as listed in Annex III.

## ANNEX I

### Outline Description

#### 1. The HNTS in Ujung Pandang

- a. The objectives of the HNTS are to educate health nurse teachers who will contribute their health knowledge and technology acquired to the development of nursing education in Indonesia. The HNTS in Ujung Pandang will replace the existing teacher school and is expected to be a new model of the health nurse teacher schools in the Republic of Indonesia.
- b. The HNTS aims to educate forty (40) students in a regular one-year course and thirty (30) students in short-time retraining courses.

#### 2. The DCNE in Jakarta

- a. The objectives of the DCNE are to develop the nursing education system, curriculum, teaching methods and other techniques by means of training activities and research.
- b. The DCNE will be staffed with several Indonesian experts and their staff who will carry out the above-mentioned activities.

ANNEX II

Buildings and equipment for the Facilities to be provided  
by the Government of Japan.

1. The HNTS in Ujung Pandang

a. Buildings

(i) Administrative part

(ii) Teaching part

(iii) Dormitory

b. Equipment

Equipment for training health nurse teachers

2. The DCNE in Jakarta

a. Buildings

(i) Administrative and control part

(ii) Research and training part

b. Equipment

Equipment for developing nursing education system

ANNEX III

Items whose cost should be borne by the Government of the Republic of Indonesia.

- a. Power and water supply mains to the buildings, including services for construction use.
- b. Telephone wiring to the buildings
- c. Drainage, sewage and septic tanks
- d. Landscaping, gateway, fence, exterior lighting and pavements
- e. Furniture, rugs and rapes
- f. Building licence fees

(2) 追加討議議事録

SUPPLEMENTARY NOTE ON THE RECORD OF DISCUSSIONS  
BETWEEN THE JAPANESE IMPLEMENTATION SURVEY TEAM  
AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT  
OF THE REPUBLIC OF INDONESIA ON THE TECHNICAL  
COOPERATION FOR THE NURSING EDUCATION PROJECT

The Japanese Cooperation Planning Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as JICA) had a series of talks with the authorities concerned of the Government of the Republic of Indonesia.

As a result of the talks, the Team and the Indonesian authorities concerned agreed to recommend to their respective Governments to add the matters referred to in the document attached hereto to the Record of Discussions between the Japanese Implementation Survey Team and the authorities concerned of the Government of the Republic of Indonesia on the Technical Cooperation for the Nursing Education Project signed on 3rd of November, 1978.



Jakarta, May 28th, 1979

*S. Nagano*

SADA NAGANO  
Team Leader,  
Japanese Cooperation Planning  
Survey Team,  
JICA

Dr. H. HERMAN SOESILO M.D., M.P.H.  
Director,  
Education and Training Centre,  
Ministry of Health

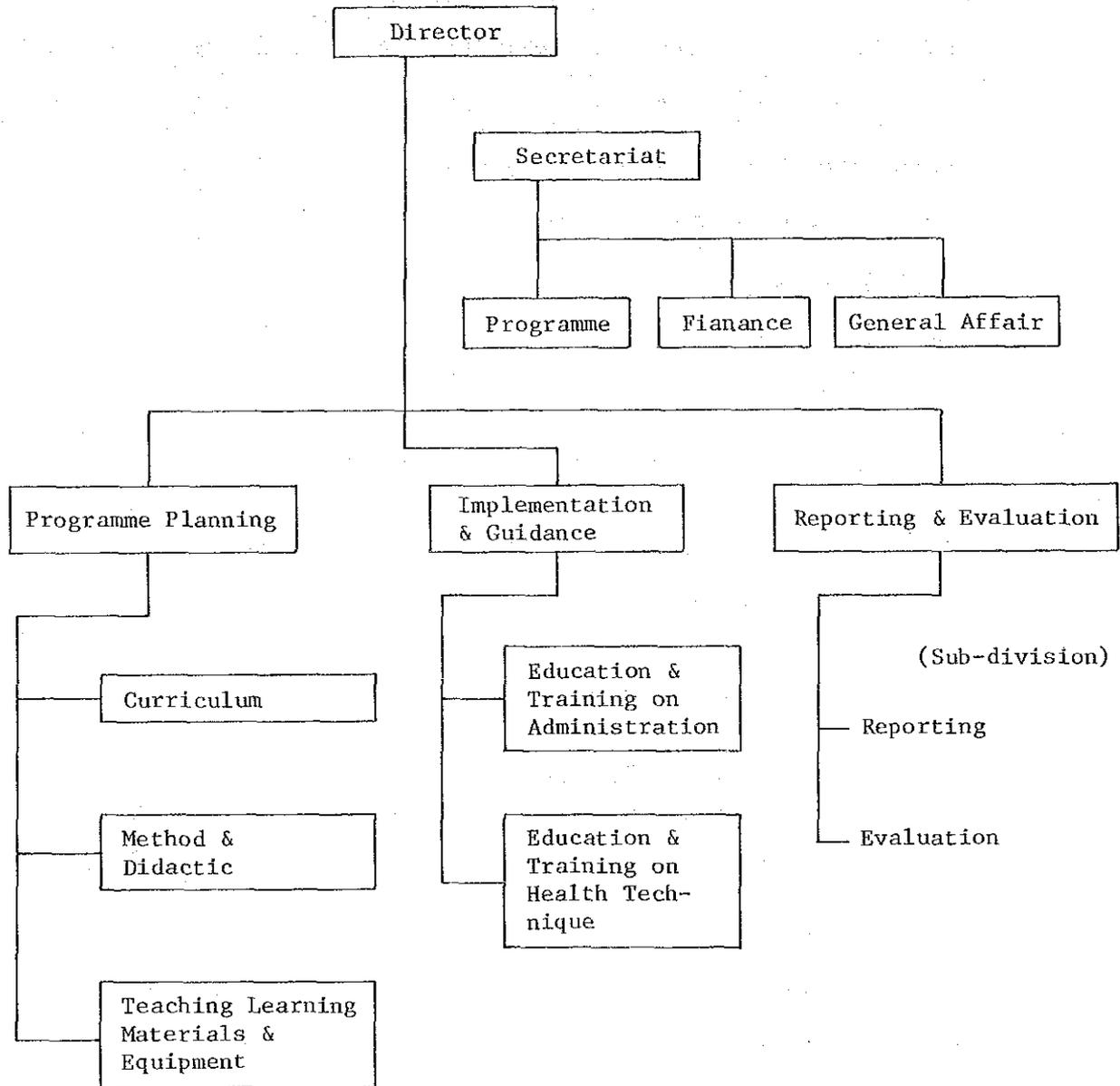
X. PROVISION OF SPECIAL MEASURES

1. For fostering the smooth promotion of the Project, in accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to finance a part of the following expenditures within the Republic of Indonesia :

- (1) Expenditures for making teaching materials;
- (2) Travel allowance of training tour;
- (3) Travel allowance of field training for instructors and trainees;
- (4) Special instructors' fees;
- (5) Materials for trainings.

2. The amount of the above-mentioned financing through JICA will be reduced step by step in parallel with the self-help efforts on the Indonesian side which will continue to be increased every year during this cooperation.

2. 保健省教育訓練センター組織図



### 3. 保健省教育訓練センターが管轄する各種学校数

#### I. 看護

1. アカデミー ..... 12校（中央政府5、州政府3、私立4）
2. 麻酔看護師 ..... 1〃（中央）
3. 看護教員 ..... 4〃（中央）
4. 保健看護学校（SPK） ..... 126校
5. 精神看護師 ..... 4〃（中央）
6. 助産婦 ..... 3〃（州1、私立2）

#### II. 公衆衛生（サニタリアン） ..... 11〃（中央）

#### III. 栄養士 ..... 4〃（中央）

#### IV. 臨床検査技士 ..... 14〃（中央7、州1、郡1、私立5）

#### V. 歯科衛生士・看護師 ..... 12〃（中央10、州1、郡1）

#### VI. リハビリテーション ..... 1〃（中央）

#### VII. レントゲン技士 ..... 1〃（中央）

#### VIII. 医療電気技士 ..... 1〃（中央）

#### IX. 薬剤助手（薬剤分析） ..... 37〃（中央5、州2、郡1、私立29）

4. 看護教育開発センタースタッフ・リスト

LIST OF DCNE STAFF

No.	Name	Main function
1.	H. Ojo Radiat, M.Sc	Director of DCNE
2.	dr. H.Y.H. Syahlan, SKM	Executive Secretary of DCNE
3.	Zr. Rocelly N. Pasaribu, SKM	Responsible for academy of Nursing Programme and its development
4.	Drs. Syaefuddin	Responsible for nursing teacher's programme and programmes for specialization
5.	drg. Farida Djufri	Data Management & Planning
6.	Ny. Noertjaja M.B.Sc	Responsible for foreign assistant
7.	Nonny Rachman Debataraja	House hold/domestic affairs
8.	Bowono Soejono	Management of studio and AVA Production
9.	Sunarsih Gunawan, SMIP	Responsible for health Nurse (Perawat Kesehatan) programme and training programme of basic level.
10.	Achyar	Management of finance
11.	M.I.A. Supriyati	Responsible for reproduction of materials
12.	Sardan	Staff of finance department
13.	W. Saribula	Management for personnel of DCNE
14.	Ny. Hamidah	Management of library including distribution of teaching materials
15.	Ny. Titi Karsiti	Staff of library department
16.	Zr. Susilawati, B.Sc	Staff of PK Programme
17.	Bambang Guruh I., BE	Responsible for the operation of studio and AVA production
18.	Ni Ketut Lisdiani, B.Sc	Staff of academy of Nursing Education programme
19.	Sulomo	Responsible for outside official visit and its travel arrangement
20.	Trenggono Wati	Staff of finance department
21.	Sawijan	Staff of PK education programme
22.	Suharya	Staff of finance department
23.	Rency Mustamu	Management of document & files
24.	I Ketut Disiartha	Clerical staff (mailing, etc.)

No.	Name	Main function
25.	Endang Bunyamin	Staff of studio
26.	Ojo Kerisna Dwipayana	Staff of studio
27.	Yulia Fatahillah	Clerical staff
28.	Acing	Driver
29.	Margijono	Clerical staff
30.	Soepardjo	House hold staff (domestic staff)
31.	Mohammad Ali	Security staff
32.	Sangka Arifin	Domestic staff
33.	Djamal	Security staff
34.	Siman	Driver
35.	Murdono	Domestic staff
36.	M. Gazali	Clerical staff
37.	Jonathan S.	Domestic staff
38.	Sonta S.	Clerical staff
39.	Yuni Windarti	Staff of finance department
40.	Wasiyati Djuremi	Clerical staff
41.	Musyati	Domestic staff
42.	Kariri	Driver
43.	Suparman	Domestic staff (cleaning service)
44.	Surachmat, B.Sc	Staff of nursing teacher's education & training programme
45.	Etty R.	Clerical staff
46.	Silfrida Iwana	Clerical staff
47.	D. Kusnadinata	Clerical staff
48.	Budiman	Staff of stuido
49.	Marsudi	Domestic staff
50.	Susilowati	Clerical staff
51.	Roida M.	Clerical staff

5. 看護教員学校の教員リスト

Name	Position & Specialty	Study in country & abroad
I. SGP Jakarta		
1) Johannes Chairanding	Director	College of Advanced Ed. 1981 Australia
2) Anis K. Daud B.Sc	CHN	Faculty in Indonesia 1980/1982
3) Jumiarni A.D. B.sc	Pediatric	Institute of education 1975/1983 Exchange to SGP Bandung for 4w. 1982.
4) Ani Masuhani B.sc	Med/Surg	JICA I year 1982/1983
5) Dewi Irawaty B.sc	Med/Surg	Teacher's training for Nurse Dalaya Kuala Lumpur 1 year
6) Siti Rochmani B.sc	Mental H.N.	
II. SGP Bandung		
1) Cristina, B.sc	Director	WHO Fellowship to Philippne 1981
2) Yosephine, B.sc	Sub/Director	
3) M. Hasan, B.sc	Med/Surg	Faculty in Indonesia 1982/1984
4) Harningsih, B.sc	Pediatric	Exchange to Surabaya SGP for 4w. 1982
5) Sutjahyo, B.sc	Med/Surg.	1983/1984 JICA fellowship?
6) Sulastri	Pediatric	1980/1981 JICA fellowship
III. SGP Surabaya		
1) Soeharti	Director	1980, 1 month JICA fellowship
2) Siger Tamboang	Med/Surg	1980/1981 JICA Fellowship
3) Murdiani Siger T.	CHN	
4) Emma P.A.	Pediatric	
5) Said Effendie, B.sc	Med/Surg	1983 JICA fellowship 1 year
6) Sisca Riry	Med/Surg	
7) Radiastuti, B.sc	MCH/F.P	
IV. SGP UjungPandang		
1) Soerjant Hassan	Director New Director	1980, 1 Month JICA fellowship
2) Annas, B.sc	Med/Surg.	1981/1982 JICA fellowship
3) Mardiyah, B.sc	Pediatric	1980/1981 JICA fellowship
4) Sabariah Genu, B.sc	CHN	Exchange to SGP Jakarta for 4w. 1983

Name	Position & Specialty	Study in country & abroad
5) Matini Benu, B.sc	Med/Surg.	
6) Saribulang	MCH/F.P.	
7) Nurhani Hamid, B.sc	Mental H.N.	

6. 看護教員学校の学生数

Year	Jakarta	Bandung	Surabaya	UjungPandang	Total
1972/1973	42		30	0	
1973/1974	34		39	0	
1974/1975	44		37	36	
1975/1976	30	29	35	18	112
1976/1977	31	14	42	31	118
1977/1978	34	52	38	25	149
1978/1979	37	33	39	22	131
1979/1980	39	15	35	24	113
1980/1981	39	28	28	22	117
1981/1982	58	56	46	33	193
1982/1983	50	40	37	30	157

7. 州別保健省看護学校数

The Number of SPK in Indonesia

May, 1983

No.	Province	Amount
1.	D.I. Aceh	4
2.	North Sumatera	14
3.	West Sumatera	5
4.	So th Sumatera	5
5.	Riau	2
6.	Jambi	1
7.	Bengkalu	1
8.	Lampung	2
9.	DKI - Jakarta	15
10.	West Jawa	19
11.	Central Jawa	14
12.	D.I. Yogyakarta	4
13.	East Jawa	22
14.	Bali	1
15.	West Nusa Tenggara	2
16.	East Nusa Tenggara	3
17.	Maluku	3
18.	South Kalimantan	3
19.	West Kalimantan	2
20.	Central Kalimantan	1
21.	East Kalimantan	2
22.	South Sulawesi	7
23.	South-East Sulawesi	1
24.	Central Sulawesi	2
25.	North Sulawesi	5
26.	Irian Jaya	4
27.	East Timor	1
Total		145 校
所管別		中央政府 5 7 校
		州 政 府 2 5 "
		軍 1 8 "
		私 立 4 5 "

8. 州別看護アカデミー設置状況

The list of AKPER in Indonesia

Province	Name
1. North Sumatera	1. Dharma Agung Medan.
2. West Sumatera	2. Padang.
3. South Sumatera	3. Palembang.
4. DKI - Jaya	4. JLn Kimia 17 Jakarta.
	5. RS, DGI Cikini Jakarta.
	6. St. Carolus Jakarta.
5. West Jawa	7. Bandung.
	8. Advent Bandung.
6. D.I. Yogyakarta	9. Yogyakarta.
7. East Jawa	10. Malang.
8. South Sulawesi	11. Ujung Pandang.
9. North Sulawesi	12. Manado.

## VII. インドネシア看護教育プロジェクト機材修理班

### 報 告 書

1. 序
2. プロジェクト概要
3. 修理機材名及び維持管理に係る状況
4. 機材修理班よりの提言
5. 現地プロジェクトよりの要望
6. 今後の機械修理班の派遣に当って
7. 各団員の報告

1. 序

今次機械修理班は10月17日～26日の10日間、インドネシア看護教育プロジェクト、2ヶ所を巡回し、供与機材の修理、点検、維持管理指導を行なった。

対象機材は、視聴覚機器及び看護教育実習室各種教材であり、下記3技師が、夫々部門別に作業を行なった。

(1) 対象プロジェクト

インドネシア看護教育プロジェクト

D. C. N. E (看護教育中央研修所) ジャカルタ

H. N. T. S (看護教員養成校) ウジュンパンダン

(2) チーム構成

八重尾 直 忠 業務調整 国際協力事業団調達部機材二課

横山 嘉郎 教育模型修理 京都科学標本(株)教材部

島 和幸 教育模型修理 " "

竹内 啓史 A D 機器修理 日本通信小野特機(株) (松下電機貿易)

(3) 派遣期間

昭和58年10月17日(月)～10月26日(水) 10日間

(4) 日 程

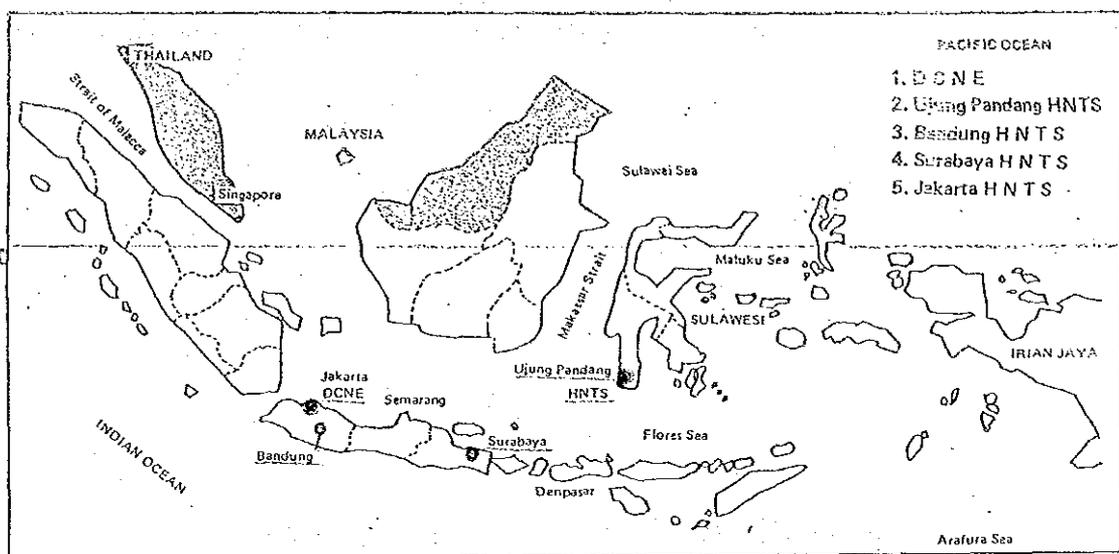
日順	月 日	曜日	行 程 及 び 内 容
1	10/17	月	成田発(GA873)11:00 ジャカルタ着 16:30 宿泊 ホテルインドネシア
2	18	火	JICAジャカルタ事務所において業務日程打合わせ及び専門家との打合せ
3	19	水	DCNEにおいて機材点検及び維持管理指導、専門家との打合わせ
4	20	木	移動日 ジャカルタ(クマヨラン空港)13:00発 → ウジュンパンダン着15:30
5	21	金	HNTSにおいて修理、点検、維持管理指導
6	22	土	移動日 ウジュンパンダン発14:30 → ジャカルタ着15:30 (時差1時間)
7	23	日	休 日 PM 専門家と打合わせ
8	24	月	DCNEにおいて機材修理、点検
9	25	火	DCNEにおいて修理、点検、調整、維持管理指導 JICA事務所にて状況報告及び打合わせ
10	26	水	ジャカルタ発(CX710)8:00→シンガポール→ホンコン経由 成田着21:30 帰国、但し横山、島、竹内の3人はホンコンより大阪直行

## 2. プロジェクト概要

インドネシア看護教育プロジェクトに対する協力は、去る54年以後、長期にわたっており、ジャカルタを中心にウジュンパンダン、スラバヤ、バンドンの3ヶ所に看護教員養成校を有する大型プロジェクトで夫々の施設に機材を供与しているが、今回はこのうちD O N E（ジャカルタ）とH N T S（ウジュンパンダン）の2個所を対象に機材の修理、点検、調整、維持管理指導を行なったが、高温、多湿に加えて電圧変動のはげしい地域だけに、平常の維持管理の重要さを痛感した。

特に現地カウンターパートや管理人等の電氣的知識の低さから電気系統の故障、破壊が大部分を占めていることを注記する。

Location of Health Nurse Teachers Schools & Development Center for Nurse Education



● Grant Aid Assistance

○ Technical Cooperation H N T S (Jakarta, Bandung, Surabaya, Ujungpandang)

(インドネシア国略図及び看護教育施設所在地)

## 3. 修理機材名及び維持管理に係る状況

10月17日当修理班が携行した修理用機材が、ジャカルタ、ハリム空港税関において先に通関手続を済ませてあった機材も含めて、全品即日通関できず、現地エージェントを通して取得出来たのは20日の早朝であった。

よってその間はD O N E（看護教育中央研修所）において、各種機材の点検を集中的に行なった。以下日程順に状況を下記する。

10/17(月)

AM 11:00 成田発(GA 873便)→ PM 16:30 ジャカルタ、ハリム空港着  
金沢職員出迎えあり、空港税関にて携行した修理用機材全品が没収され通関不能、後日引取ることとした。ホテルインドネシア投宿

10/18(火)

JICA ジャカルタ事務所訪問、挨拶及び業務日程打合わせ、機材引取依頼

PM、看護教育専門家(藤門リーダー、吉田谷、沢田)の各氏との合同打合わせ

10/19(水)

DCNE(看護教育中央研修所)にて、藤門リーダー及び吉田谷、沢田両専門家と現地カウンターパート立会いのもと、概況説明を受けた後、視聴覚機材並びに看護実習用機器の全般的な点検を行なう。

10/20(木) 移動日(ジャカルタ→ウジュンパンダン)

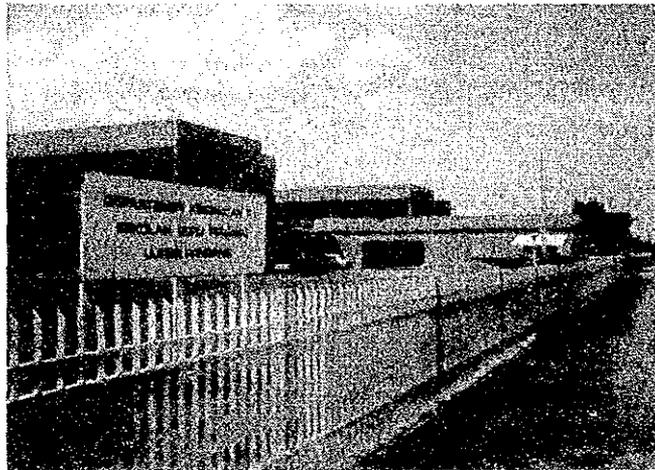
ハリム空港税関に没収されていた修理用機材をAM10:00に引取り、直ちにタマヨラン空港へ向う。13:00発(GA)→ウジュンパンダン着15:30

HNTS(看護教員養成校)には常駐の専門家が居ないため、担当の沢田専門家が同行する。

ロザリндаホテル宿泊

10/21(金)

HNTS(ウジュンパンダン看護教員養成校)にて、機材修理、点検、調整、維持管理指導を行なう。



HNTS(ウジュンパンダン看護教員養成校)

(1) 視聴覚機器関係

担当 竹内啓史技師(日本通信(株) GOBEL NATIONAL社 ROBERT氏協力

◎レコードプレーヤー(スタジオ用) SL1600MKII:アーム機構部破損、修理不能  
本機材は56年度無償供与されたもので、到着後6ヶ月位で故障、以後使用していない。  
又、レコード入手も困難で利用頻度も少ない。

- ◎ポータブルカメラ WV-3200:DC、DCコンバータトランス不良、修理不能により取替の要あり。よって、ジャカルタへ持参。GOBER NATIONAL社とDCNEで協議し修理することとする。



(VTR用カメラ修理中の竹内氏(中央))

- ◎その他視聴覚教室のモニターテレビ及び放送室(スタジオ)のVTR、モニターテレビ、カラーカメラ、オーディオ関係機器の総合点検調整。維持管理指導。

(2) 看護教育機器関係

担当 横山嘉郎、島 和幸技師 (京都科学標本(株))

- ◎記録式人口呼吸人形C型:気管部折損、閉鎖のため、部品取替及び顔面(マスク)取替え

- ◎分娩用モデル人形:羊水模擬血液、出血装置故障ヶ所の修理



(人口呼吸モデル修理点検中の島氏)

◎その他、看護実習教室、人体解剖模型全品の総合点検及び現地スタッフに対する実習指導並びに維持管理指導特に電源については取扱い上の注意を喚起した。

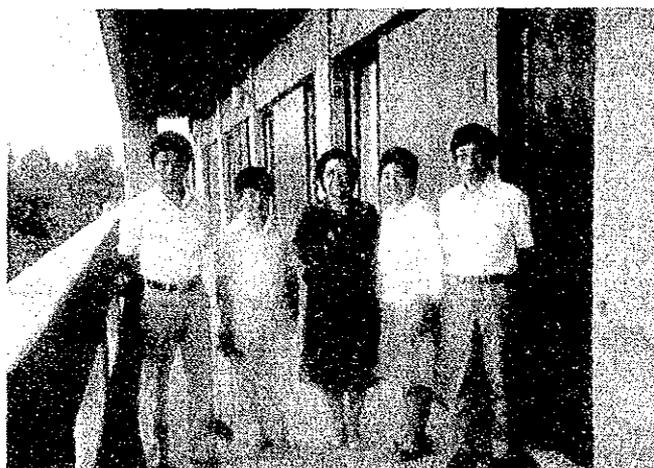
10/22(土) 移動日 (ウジュンパンダン発(14:30)→ ジャカルタ着(16:30) ジャカルタ到着後、JICA事務所においてウジュンパンダンにおける修理業務状況報告

10/23(日) 休日

インドネシア中型プロジェクト派遣専門家来訪

10/24(月)

DCNE(看護教育中央研修所)にて、機材修理、点検、調整及び維持管理指導を行なう。



(DCNEにて専門家と修理班)

(1) 視聴覚機器関係

担当 竹内啓史技師、GOBEL NATIONAL社HADI氏協力

◎VTR、NV-8200型：カセットケース部、スプリング脱落部分修理

◎オリンパス顕微鏡BHA、413-HL、AC220：漏電、内部ラインフィルター部

絶縁不良につきアース線取りはずし、カメラ部レンズ脱落修理

◎モニターテレビVTR入力8Pコネクタ：破損部分修理

◎スタジオ用カラーカメラWV3600：点検、調整

◎教室用VTR、モニターテレビ、オーディオ機器作動点検

◎その他

(2) 看護教育機器関係

担当 横山嘉郎、畠 和幸技師

◎静脈注射訓練モデル：血管及び皮膚部破壊部分修理及び部品取替え

◎動く心臓模型：点灯用リレー故障部修理



(静脈注射訓練モデル修理中の横山氏)

◎その他、救急人形の記録計、表示器及び内部駆動部の修理、取替え保育器その他各機材の  
総点検

10/25(火) DCNE(看護教育開発センター)

昨24日に引き続き作業を行なう。

(1) 視聴覚機器関係

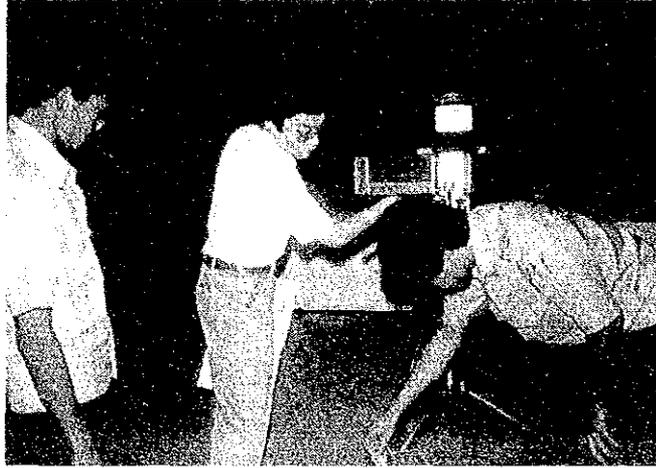
担当 竹内啓史技師 GOBEL NATIONAL社 HADI氏協力

◎VTR、NV-9400型：内部駆動ベルト脱落部修理、ローディング機構部調整

◎特殊効果装置WJ-5500の機能変更：WJ-5500をVTRによるテロップ挿入  
のため白黒カメラ入力経路、文字スーパー入力配線VTR出力、  
ゲインロック入力配線

◎ポータブルカラーカメラWN3200型：ビジコン取替、内部電気回路調整

◎その他、点検、調整、維持管理指導、午後5時30分終了



( V T R機器調整中の竹内氏(中)右はHADI氏)

(2) 看護教育実習機器関係

担当 横山嘉郎、嶋 和幸技師

◎人体解剖模型各部、標本及び他メーカーの検査機器の総点検及び調整、カウンターパートに対する維持管理指導、午後2時終了)

夕方、J I O A ジャカルタ事務所において今次機材修理班の業務につき総合的報告並びに帰国挨拶。

10/26(水) 帰 途

ジャカルタ発(AM8:00)OX710便にて、シンガポール→ホンコン経由  
成田着(PM10:00)帰国

なお修理班の横山、嶋、竹内の3氏はいずれも関西在住のため、ホンコンより大阪直行便にて帰国

4. 機材修理班より提言

上記の通り今回の修理班は、本プロジェクトのうち2カ所を巡回したが、熱帯地における機材の維持管理について下記提言する。

(1) 電源について

供与機材の殆んどは電氣的仕様のものが多く、今回修理した機材もすべて電氣的系統の故障、破損と言える。

インドネシア国内も、ご多聞にもれず電圧変動が極めてはげしく、時としては機材の許容範囲を越える電流が流れ、これが原因と思われるトラブルが多い。

また、電氣的知識の欠乏により、不正確な作動、配線工事の不備、しばしば起る停電、100V仕様の機材をトランスを介さずに200Vコンセントに接続した例等が原因として挙げられる。

海外向け機材の仕様については構起請求の段階で充分対応されているものの、取扱説明書等の保管上の不備によるものも見受けられた。

また、本看護教育プロジェクトの派遣専門家は3名とも女性専門家であり、必ずしも機械に強いとは言えないこともあり、広いインドネシア国内に4ヶ所の施設を持つプロジェクトの規模から見て調整員の派遣が必要と思われる。

## 5. 現地プロジェクトよりの要望

本プロジェクト派遣専門家藤門リーダーより、概略下記要望が述べられた。

- (1) 供与機材の現地到着後各地のプロジェクトへの輸送が現地側予算の都合等で大巾に遅延している。

今後は夫々の最寄港へ直送してほしい。

- (2) 本プロジェクトに対する調整員の派遣

- (3) 3専門家のうち、吉田谷、沢田の両専門家は11月上旬帰国するため、59年4月まで藤門リーダー1人になるため、その間アシスタント1人の派遣を要望する。等々であった。

なお上記(1)について58年度の供与機材は、ジャカルタ、スラバヤ、ウジュンパンダン等夫々最寄港へ直送することとなっている。



(ウジュンパンダン看護教員養成校)

## 6. 今後の機材修理班派遣にあたって

今回もそうであった様に、インドネシアへは例え公用旅券であり、前以って携行機器の通関申請を行なっても例外なくハリム空港税関で保管されてしまい、これが受出しまでに最低3日間を要することを念頭に置いて派遣日程を設定することが肝要である。

因に今回の修理班はインドネシア1ヶ国だけであったが、ジャカルタ→ウジュンパンダン間は千数百キロ離れており移動日に往復2日を要すること更に宿泊地からプロジェクト所在地までの距離が遠い場合、土曜日など実働2時間が限度である。

前掲日程表にある通り、その国の労働慣習を含めて、今修理班が修理、点検業務に当てた日数は10日間のうち、実質4日である。従って、対象機材のうち、視聴覚機器は数量も多いことから、最終日の夜まで作業を続けた。よって一部機器については点検できないものもあったが、故障機器については現地に部品の無い物を除いて殆んど修理、点検出来たことは修理班各員の時間を気にしない努力と派遣専門家の協力の賜と感謝し、今回の派遣修理班の報告といたしたい。

以 上

看護教育機材修理班業務調整

調達部 機材第二課 八重尾 直 忠

## 7. 各団員の報告

京都科学標本(株)

横山、 晶

インドネシア看護教育プロジェクト供与器機の修理及点検について、次の通りご報告申し上げます。

### (1) ジャカルタ DCNE

修理品目：記録式救急人形 A形	1
静脈注射訓練モデル	2
点検：その他人体解剖模型及生物標本	1式

#### 故障箇所及修理

救急人形の記録計は国内に於いては100V電源用を使用しております。

一方、海外向記録計にはその国の電源にあわせて電圧器を付けて居りますが、ジャカルタで使用されている電圧器は別のもので、しかも電圧器の使用を誤ったため、回路の一部が焼けていました。故に持参した新しい記録計に取替えしました。新しい記録計は100V使用のものを220V用に改良致しましたので同じ様な故障がおこることはないと思じます。

表示器・人形内部の駆動部につきましても新しいものと取替えてご座居ます。救急人形の気道部分ですが塩化ビニール製のものを使っておりますが、高温のため変形することが考えられますので保管方法について説明申上げました。静脈注射訓練モデルについては模擬血液を入れた袋と本体を接続するゴム管の破損及血管部と皮膚部が高温多湿のため破損してましたのでゴム管をシリコンチューブに交換しておきました。血管部と皮膚部についても新しいものと交換してご座居ます。動く心臓模型がランプが点灯しないとのことで点検した結果、点灯用のリレーが振動ではずれていましたので修理しておきました。その他模型、標本を点検致しましたが幸い故障箇所は見当りませんでした。しかし乍ら現地調達で展示ケース(本箱)が模型・標本の保管には適せず、予想した以上に汚れ、退色が目立ちました。中にはケースに入れてないもの、ベットに寝たきりのもの(万能モデル)が数点ご座居ましたので長期保存のためにも専用ケースのご使用を是非検討下さい。(ウジュンパンダンも同様です)点検に際し他社製品も一緒に調べましたところ電気に対する知識が十分でないための故障が目立ちました、一応すべて修理してご座居ます。

### (2) ウジュンパンダン DCNE

修理品目：記録式人工呼吸人形 C形	1
点検：分娩用モデル人形他人体解剖模型	1式

#### 故障箇所及修理

人形の気管部が高温のために折れて気管が閉鎖され、人工呼吸の練習が出来ない状態です。

たので新しく交換致しました。ジャカルタ同様保管方法について説明してご座居ます。記録計について点検を行いました但し別に問題箇所はありませんが、但、現地の周波数が安定せずそれが原因で記録計の針が振れることが時々ありますが故障ではありません。記録計を使用される時には220V用電圧器をご使用頂く様重ねてお願い致します。分娩用モデル人形については羊水模擬出血が出来るようになっていますが、羊水模擬血液を入れた袋と本体を接続するコネクションが破損しているとのご報告を頂きました。しかしこのモデルについては接続するコネクションはあの様なもので破損はして居りませんでした。但、使用しにくいとのことでしたので、ゴム管とピンチコックを接続して使い易く致しました。

以 上

氏 名 竹 内 啓 史  
 指 導 科 目 視 聴 覚 機 器 修 理  
 現 住 所 兵 庫 県 尼 崎 市 南 塚 口 町 7 丁 目 2 9 - 3 7  
 通 信 連 絡 先 電 話 大 阪 ( 3 1 3 ) 3 3 5 1 番 ( 代 表 ) 日 本 通 信 小 野 特 機 ( 株 )  
 勤 務 機 関 名 日 本 通 信 小 野 特 機 株 式 会 社 大 阪 市 北 区 末 広 町 一 番 二 十 二 号  
 お よ び 住 所

ジャカルタDCNE及びウジュンパンダンSGP修理報告書

○ ジャカルタDCNE

1. 教室モニタテレビ1台VTR入力8Pコネクター破損 未完了
2. オリンパス顕微鏡漏電の為手直し及びレンズ脱落の為修理 完了
3. スタジオカラーカメラWV-36001台撮像管ビジコン取替調整 完了
4. ポータブルカラーカメラWV-32001台近赤外線フィルター取替及び  
撮像管ビジコン取替調整 完了
5. VTR NV-8200カセットテープケース部スプリング脱落の為修理 完了
6. VTR NV-9400動作せず内部駆動ベルトはずれ及び  
ローディング機構部調整、  
内部フォトダイオード不良に付修理の事 一部未完了
7. カラーモニタテレビTC293NSP電源回路抵抗不良に付取替修理 完了
8. スタジオ特殊効果装置WJ-5500VTR再生にて  
文字画挿入要望の為結果変更 完了

○ ウジュンパンダンSGP

1. レコードプレーヤーSL1600MKIIアーム機構部不良 未完了
2. ポータブルカラーカメラWV-3200画像不良の為  
ジャカルタDCNEへ持帰り内部D.C D.Cコンバータトランス  
不良に付取替の事 未完了

上記不良製品の未完了分は、現地ナショナルコーベル株式会社にて修理を行ないます。

10/17(月)	東京成田よりガルーダ航空にて、インドネシアハリム着 現地税関にて、VTR部品一式没収の為、後日引取り予定、但しカメラ撮 像管ビジコンは持込み可能でした。 現地ホテルインドネシアにて宿泊。
10/18(火)	現地JICA事務所にて打合せ 前日税関にて、没収部品引取り依頼 ウジュンパンダンSGP打合せ 現地責任者不在の為ジャカルタDCNEより日本人専門家同行にて作業予 定。現地ホテルインドネシアにて宿泊。
10/19(水)	JICA事務所にて税関没収部品確認10月20日引取り予定 現地DCNEにて作業National GOBEL HADI氏協力にてカラーカメ ラ等点検、スタジオカラーカメラWV-3600 1台 撮像管ビジコン取替調整、WV-3200カラーカメラ近赤外線フィルター 不良に付National GOBEL手配にて後日取替予定
10/20(木)	ジャカルタ → ウジュンパンダン移動 DCNE日本人専門家 沢田様同行 JICA事務所にて税関没収部品引取り 現地 ホテル・ロザリンダにて宿泊。
10/21(金)	ウジュンパンダンSGPにてNational GOBEL ROBERT氏協力にてV TR、モニターテレビ、カラーカメラ、オーディオ機器動作点検 カラーカメラWV-3200 1台不良に付ジャカルタへ持帰りの事 レコードプレーヤーSL1600MKIIアーム機構部不良 現地にて修理不能。 現地ホテルロザリンダにて宿泊。
10/22(土)	ウジュンパンダン → ジャカルタ移動 現地ホテルインドネシアにて宿泊。
10/23(日)	休日
10/24(月)	DCNEにて作業National GOBEL HADI氏協力にて点検 2F教室VTR、モニターテレビ、オーディオ機器動作点検 モニターテレビVTR入力8Pコネクター破損に付修理の事 スタジオ分カラーカメラWV-3600 10月19日分残り分調整 オリンパス顕微鏡BHA-413-HL A. C220V漏電 内部ラインフィルター部絶縁不良に付アース線取りはずし及びカメラ部レ

10/25(火)	<p>レンズ脱落に付接着剤に固定取付</p> <p>VTR NV-8200カセットケース部スプリング脱落に付修理</p> <p>現地ホテルインドネシアにて宿泊。</p> <p>DCNEにて作業National GOBEL HADI 氏協力にて点検</p> <p>前日残分VTR点検NV-9400動作せず。</p> <p>内部駆動ベルトはずれ及びローディング機構部調整。</p> <p>内部フォトダイオード不良に付部品手配にて修理の事。</p> <p>特殊効果装置WJ-5500とVTRを用いて文字を挿入する要望の為</p> <p>白黒カメラ入力経路にて特殊効果装置WJ-5500。</p> <p>文字スーパー入力へ配線、VTR出力をゲインロック入力へ配線。</p> <p>ポータブルカラーカメラWV-3200ビジコン取替内部電気回路調整。</p> <p>カラーモニタテレビTC293NSP1台電源部抵抗不良に付取替。</p> <p>現地ホテルインドネシアにて宿泊。</p>
10/26(水)	<p>ジャカルタハリムよりキャセイ航空にて帰途。</p> <p>ジャカルタ→シンガポール→ホンコン→大阪</p>





